婦選

八月號

婦選獲得同盟

昭和…年八…日發行
第…七號
…拾五


松坂屋の海水着
海水浴の季節が參ります當店では獨特のデザインになる海水着サンラスをはじめ各種の海水浴用品が豊富に取揃へてございます。御用命の程願上ます。
東京上野・東京銀座
名古屋・大阪
松坂屋

FUSEN・FUSEN

婦選 第四巻第七號 八月號目次

あるカリケチュア（巻頭言）……（三）
制限婦人公民權案を排す……市川房枝……（四）
婦選團體の複數化……小泉郁子……（一三）
實際運動といふもの……金子しげり……（一九）
婦選戰線だよりその他（婦人界展望）……（二一）
制限公民權案をどうみる
生田花世、阿部靜枝、竹内茂代、平林たい子、恩田和、山川菊榮、山室民子……（一〇）
制限公民權反對に婦選團體起つ……（九）
時の問題 勞働組合法案……（一八）
新無産黨全國大衆黨產る……（一七）
第二回汎太平洋婦人會議……（二〇）
久布白さんナンセンス……エス子……（三七）
久布白女史惜別會の記……（一三）
本部の日記より……（三四）
萬女鑑……（四三）
吸取紙……（三九）
廣告とり（漫畫）……モリ・コウ……（三七）
或日の私……坂本眞琴……（三六）
女心の内外（隨筆）……生田花世……（三七）
或女の憂欝……松浦久子……（四四）
表紙……木村五郎
カット……森 [illegible]



あるカリケチユア

漫畫家　爼上に一本の大根を横へやう。大根は、婦人公民權である。爼の向ふ側に、襷がけで庖丁を握るのは、安達內相である。庖丁には漸進主義の銘を刻まねばならない。さて、この大根が輪切りにされるか、銀杏に切られるか、或は千六本に刻まれ、卸し大根ともならうかは、偏にこの庖丁の切れ味如何に存する。

をんな　後の方からのぞいてゐるのは誰ですか。

漫畫家　貴族院と樞密院の舅姑だ。どう大根が料られるかを見てゐるわけだどうも大根卸しでないと、のどを通るまいといふ顏の表情なのだが。

をんな　それは困ります。大根は大根のもち味をいかす爲に、丸のまゝでおいてくれなくては。

漫畫家　それはあなた方の覺悟次第だ。私の役目としては、あなた方の顏をかき加へなくてはならない。(女の顏をかき足す)

をんな　もつと澤山。そして制限公民權案絶對反對とはつきりかいて下さい。

（畫家かき入れる）

漫畫家　おやその老人のそばの女はどういふのですか。

漫畫家　女の中でも、千六本でも大根卸しでも早くたべたいといふのもありさうだからな。

をんな　失禮な。

漫畫家　仕方がないよ、ありのまゝをかくんだからな。然しあなた方の方がずつと數を多くしてある。

をんな　よろしい、その代り絶對反對をもつと、もつと、澤山かいて。



制限婦人公民權案を排す

市川房枝

一、完全婦人公民權と制限婦人公民權

完全婦人公民權が何を意味するか、完全に對し制限婦人公民權とは何を指すかは本誌の讀者にとつては改めて說明する必要がないやうに思はれる。

然し本論を進めて行く順路として簡單にその內容から述べてみやう。

公民權は現行市制第九條、町村制第七條に於て

『帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ二年以來市(町村)住民タルモノハソノ市(町村)ノ公民トス但シ……』

と規定され、二十五歲以上の殆ど總ての男子には、市町村に於ける公民權が賦與されてゐる。

然してその公民權とは、市制第十條、町村制第八條に於て

『市(町村)公民ハ市(町村)ノ選擧ニ參與シ市(町村)ノ名譽職ニ選擧セラルル權利ヲ有シ市(町村)ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ』

の如き權利義務をさしてゐる。

選擧に參與し名譽職に選擧せらるゝ權利が、市町村會議員の選擧權及被選擧權を意味してゐる事は勿論であるが、名譽職と呼ばれるものの中には、市に於ては市會議員の他、市參事會員、市參與、區長及其代理者(六大都市以外の市の)並に臨時及常設の委員(學務委員等)、町村に於ても町村會議員の他、町村長及助役、區長並にその代理者、臨時及常設委員(學務委員等)に任命される權利及義務が含まれてゐる。

市町村會議員、市參事會員以外の名譽職は市町村長の推薦により、市町村會がこれを決定することに規定されてゐる。

(因に名譽職とは一定の俸給を受けず、單に職務のために要する費用の辨償若しくは勤務に相當する報酬を受くるもので、從つて他の職業と兼任する事が出來るものをいふ)

從つて公民權は市町村會議員の選擧權及被選擧權よりも遙に廣いものであることに注意を要する。

尙市町村公民には、市町村以外府縣會議員の選擧權及被選擧權が賦與されてゐる。即府縣制第六條第一項に於て

『府縣內ノ市町村公民ハ府縣會議員ノ選擧權及被選擧權ヲ有ス』

と規定されてゐる。

即現行法に於ては公民の資格範圍は次の如く規定されてゐるものと見る事が出來る。

公民の資格

一、帝國臣民
二、二十五歳以上の男子
三、二年以來同じ市町村に住んでゐるもの

公民權の範圍

一、市町村會議員の選擧權及被選擧權
二、名譽職に選擧さるゝ權利と義務
三、府縣會議員の選擧權及被選擧權

完全婦人公民權といひ制限婦人公民權といふも、それ等は何等法律上に於ける術語ではなく、右の如き男子に限られたる公民權を婦人に與へんとする場合、男子と同樣の資格範圍內に於て與ふるか、乃至はその中の一部分を一部の婦人に與へんとするかを意味してゐるのである。

即男子と同樣に右に掲げた資格の女子に、右に掲げた範圍の公民權を與ふるのを完全婦人公民權と稱し、資格乃至は範圍に多少でも制限を附せんとするのを制限婦人公民權と稱してゐる。

二、制限婦人公民權の內容

制限公民權と一口にはいふが、其の資格範圍の制限の方法によつて種々なる制限婦人公民權がある。

現在主張されてゐるものの中の主なるものを其の資格及範圍について列擧してみやう。

制限婦人公民權の範圍

一、道府縣を除き市町村に於ける完全なる公民權を與へんとするもの
二、道府縣及市町村の名譽職を除き市町村會に於ける選擧權被選擧權だけを與へんとするもの
三、道府縣は勿論市町村會の被選擧權及名譽職を除き單に市町村會議員の選擧權のみを與へんとするもの
四、道府縣及全市町村に及ぼさず六大都市だけに施行せんとするもの

制限婦人公民權の資格

一、年齡を三十歳以上にせんとするもの
二、世帶主乃至は獨立の生計を營むものだけに與へんとするもの
三、中等教育を受けたものだけに限らんとするもの
四、如何がはしき職業(藝娼妓等)に從事してゐるものを除かんとするもの

三、內務省の制限婦人公民權案

內務省が來る第五十九議會に、政府案として提案せんとしてゐる婦人公民權案は、七月十四日の都、讀賣新聞紙によると

一、市町村會議員の選擧權だけ
二、年齡三十歳以上

となつてゐるし、七月二十日の日々新聞外各新聞によると

一、市町村會議員の選擧權及被選擧權
二、男子同樣二十五歳以上

となつてゐる。
直接の責任者である內務省次田地方局長の言によると、
「今原案作成にとりかゝつてゐる事は事實であるが、まだ內容は決定してゐない」
との事である。

恐らく地方局長の言の如く未だ內容が確定してゐないといふのが事實と思はれるが、結局新聞紙の傳ふる如く極めて制限されたものとなるであらうことは想像される。

尤も十四日の新聞紙と二十日の新聞紙のとでは內容が可成相違してゐる。後者は所謂市町村だけに於ける完全なる公民權に近いが、然しこのまゝに放置すれば前者位になり兼ねないであらう。

內務大臣は本年五月の第五十八議會に於て市町村會の選擧權だけなら賛成だと明言したが、年齡の問題には言及しなかつた。齊藤政務次官は同じ議會に於て、市町村の選擧權だけでも世帶主乃至は獨立の生計を營むものに制限し、年齡も三十歲以上としたき意をほのめかしてゐた。

此の兩者の態度の相違は當時貴族院の委員會で問題となつたと傳へられてゐる。

此事は齊藤次官が婦人參政權の絕對反對者であることを知つてゐるものにとつては、不思議はないが、然し內務省に於て原案を作成するに際し甚だしき障礙となる事は確かである
當時政府案となる以上は、閣議の承認を經る必要があるが閣僚中にも亦松田拓相の如き絕對反對者がある。尙勞働組合法を通過せんがため婦人公民權を後廻しにしやうとの意見も相當あるらしい。從つて政府案として第五十九議會に提案し得るや否やも尙疑問に思はれる。

四、制限婦人公民權案の論據

なぜ完全公民權案に反對して制限公民權案に賛成するか、これについての明確な理由の說明を殆ど私達は聞いた事がない。これについての論議も全く行はれてゐない。

前議會に於ける內相次官の說明及內務省の意見として新聞に發表された所によると、

範圍については

一、急激に與へる事はいけない。一歩〳〵與へた方がいゝ。それに女はまだ教育されてゐないから先づ市町村の選擧權だけ與へるがよろしい。

一、被選擧權を行使する事、名譽職に選擧されることは未だ婦人には出來ないし、女の市會議員や市長等出來ては困る、市會議員にならなくとも選擧權だけあれば婦人の意志を反映させることが出來る。

一、道府縣會は婦人の生活とは關係がうすいし、市町村の公民權を行使して訓練が出來てからでよろしい。

資格について

一、婦人は男子よりも政治的能力が劣つてゐるから三十年とするが適當であるし、尙男子と同じ二十五歲以上にな

ると婦人公民の數が男子公民よりも約三十萬人増加するからいけない。

といふのである。

それ等の意見は一讀して判る如く極めて矛盾した不徹底極まるもので、出し惜しみ乃至は反對せんがための反對としか解釋が出來ない。

五、我等の制限公民權案に對する態度

いふ迄もなく私共は婦人の政治的解放のために、參政權、公民權結社權の獲得を目的として今日迄闘つて來た。私共にとつては此の三者には輕重なく、三者共同時に、出來るだけ早く獲得することが、婦人のためのみでなく社會、國家のためにも必要であると信じてゐる。

然し三者共法律の改正を要する關係上、議會の協贊を得易きものから獲得する事、は實際運動として已むを得ないとしてゐる。然して婦人公民權案が最も可能性多きことを認めるが故に、婦人參政權の第一歩として一兩年これが獲得に全力を盡して來た。

從つて私達としてはこれ以上讓歩することは出來ない。若し讓歩して制限案として實現せしめる如き事があれば、それはかへつて參政權獲得の時期を遲延させ將來の運動を妨げる結果となることは確かである。

何故ならば一度市町村會の選擧權だけが通過すれば少くも二回位の選擧即八ケ年經なければ次の改正は困難である。其上若し實施した結果が不滿足であればかへつて反對者に口實を與へるおそれもある。

英國の婦人が三十歳を二十歳に低下するために十ケ年の苦闘をなめた事は、私共にとつてはいゝ教訓である。

私共はむしろ一二ケ年おくれるとも完全なる公民權を獲得する方が大局から見て得策であると考へるものである。

然してそれは今日の政界の事情から見て決して不可能ではなく私共の努力如何によつて出來得るものと信じてゐる。

内務省の制限案贊成の理由として掲げてゐるものは、前に述べた如く矛盾した極めて不徹底なものである。

第一市町村の被選擧權及名譽職をこばむ理由に婦人の無能力並に其必要なき事をあげてゐるが、被選擧權名譽職は男子の場合と同様少數の適任者だけがこれを行使するもので、選擧法そのものの精神からいつても選擧權よりも被選擧權の方が制限が少くしてあるではないか、殊に今日の男子の市町村會議員及名譽職についてゐる人達についてみればむしろ婦人の方に遙かに多數の適任者があることを斷定してはばからない。又選擧權だけでなく婦人が直接市町村の機關に參與しなければ婦人の意志を十分に反映せしめる事は出來ない。

第二に道府縣は婦人の生活とは關係がうすいといふ事も曲解であり、市町村の公民權が行使出來てなぜ府縣の選擧被選擧權の行使が出來ないか、私共には了解が出來ない。

第三に男子よりも政治的能力が劣つてゐることを理由とし

て年齢を三十歳とせんとするは矛盾も甚だしい。婦人は男子よりもむしろ早熟といはれ、自由結婚に於ては男子は三十歳以上となつてゐるに拘らず婦人は二十五歳以上と規定されてゐるではないか。殊に女子教育の普及は近年の事に屬するから、老年者よりも若い婦人の間に教育を受けた者の多い事はいふ迄もないことである。三十歳説といひ、婦人公民が多くなるといふ事は、英國の例を學んだのらしいが、本家が改正した後に、その惡例に慣ふ必要はない。

これを要するに内務省の所説は、婦人を低能扱ひにし、山川氏の言の如く夜店の花の如く値切り倒さんとするものであることは明瞭である。

尤も内務省としては貴族院の保守的分子に迎合せんとするものであることを口に出していつてゐるが、内務省としてはむしろこれを政略的に扱はんとしてゐる跡が甚だ多い。

即現内閣としては他の政黨と同樣婦人に與へたくはない。然し政友會の內閣になれば必ず婦人に與へるであらう事が豫想される。若し政友會內閣の手によつて與へられゝば政友會に功を奪はれると同時に婦人の投票をも奪はれるおそれがある。されば現內閣の手でどうしてもこれを與へる事が得策であるが、貴族院乃至は樞密院から新らしがりの誹りは受けたくない。

それで極めて尤もらしい一歩〳〵といふ口實の下に、申譯的に婦人公民權を少しばかり與へやうと決心させたのではあるまいかと豫想される。

私達としては政友民政その何れにも何等の恩怨もない。何れがこれを與へやうとも差支はない。私達は出來るだけ早く完全な公民權を獲得し、これを私達のみならず一般の婦人をして自由に、最も適當に行使せんことを期してゐるのである。

從つて私達は此際さうした政略に禍ひされる事なく、完全なる公民權の獲得のために猛進しなければならない。

その爲めには制限公民權案の提出を阻止する運動も必要となるであらうし、婦選運動者中の裏切者と闘ふことも餘儀なくされるかも知れない。

事務員を求む

婦選獲得同盟の事務所で働いて下さる事務員を一人欲しいのですが、どなたか御希望の方はないでせうか。年齢廿歳から廿五歳迄で體の丈夫な、なるべく在京の方を望みます。俸給は初め三十圓位。御希望の方は、自筆の履歴書封入の上お申込下さい。



――寫眞は安達內相と會見中の三團體代表――

◇政府の制限婦人公民權案に對し

婦選團體起つ◇

政府は來る第五十九議會に對し極めて制限されたる婦人公民權案を提案することに決したと傳へられるので之に對する對策を決定するために、七月廿三日午後三時から婦人矯風會に於て、各婦選團の協議會を開催した。

出席團體は日本基督教婦人參政權協會、婦人參政同盟、婦人同志會、婦選獲得同盟の四團體で、何れも制限案には絕對反對する事に申合はせ、婦人同志會を除く三團體は左の聲明書を發表すると共に、其目的の貫徹を計るべく、七月廿四日午前、內務大臣、次田地方局長及各政黨を訪問した。

聲明書

婦人の政治的進出は世界の大勢であります。我國に於ても婦人參政權獲得運動の氣運は愈々進展し、第五十八議會に於て、婦人公民權案は、貴族院に於て不幸審議未了に終つたとはいへ衆議院に於ては絕對多數を以て通過し、國民の輿論民衆の意の趣くところを公示しました。

私共は、來る第五十九議會に於てこれが通過を期して居りますが傳へらるゝ所によれば、政府は市町村の選擧被選擧權に限定し、公民權が當然含むべき市町村の名譽職 道府縣の選擧、被選擧權を除いて居るのであります。

私共は、其の獲得を遲しとする今日、かゝる制限公民權案には絕對反對で、完全なる婦人公民權案の通過をはかると同時に、參政權及結社權をも併せて提出、その通過を期するものであります。

昭和五年七月廿三日

日本基督教婦人參政權協會
婦人參政同盟
婦選獲得同盟

制限公民權案をどうみる？

○　生田　花世

豆腐にかすがいといつた風な狀態での當局との婦人政治運動進出の活動はなほさま／＼の苦心、いばらのみちを辿らなければならないでせうが、しかしひとすぢに要求してゆく力をもちたいものです。制限案などのないものが通過することを希望します。

○　阿部　靜枝

斷然、現行男子の公民權と同一のものでなければなりません。

受けるに重すぎる權利といふやうに男達は考へてゐるやうですが重すぎるものでもそれを得れば生かす力を自然に湧かすものです。埋れてゐる力を女はゆたかに秘めてをりますから。

○　竹内　茂代

制限案は非

今更制限でもありますまい。

幸此間新聞の傳ふるところでは町村だけの公民權に對しては全く男子同樣とありますが同時に縣會議員にも及ぶ樣に新舊婦選團體の大同團結の猛運動を望みます、御座なりの軟運動はしない方がよい。

○　平林たい子

勿論非。あくまで徹底婦選の旗印をかへずに、たゝかひをすゝめて行きます。

○　恩田　和

婦人公民權案

來議會に提出

市町村から先づ實施

地方局で方針決定

內務省地方局は愈々多年の懸案である婦人公民權案を來議會へ提出することに決定し細目について審議し立案中でその要綱は次ぎの如く女子も男子と同一條件の下に市町村公民權のみ付與しこれに習熟したる後道府縣の公民權を付與せんとする漸進主義を採るものである。これが實施の曉には、女子公民權者の總數は千二百八十萬人（大正十四年調查）で男子よりも卅萬人多數となる、しかし、立案を完了してから內務省議に付し閣議に提案するものであるから實現までには今後相當の迂余曲折を免れ難い。

案の內容

一、女子公民權の資格

年齡滿廿五歲以上の帝國臣民たる女子にして二年以上同一市町村住民たるもの

理由　現行制度では廿五歲以上の男子で二年以上同一市町村に居住してをれば所

私は制限案に大反對です。

市町村のみでなく府縣の選擧權もふくめたものであるべきは勿論です。年齢は男子と同等たるべき事、男子でも女子でも、教育—學歷—によつて人の價値を定める事は出來ません。白痴か社會に對してゆるされがたき不德義又は法律上の犯罪をなしたるもののほかは全く男子と同等の權利を得ねばなりません、女子だから制限を附せられる理由が全くわかりません。

○　**山川　菊榮**

男子と異る、どんな種類どの程度の制限にも絕對に反對です。

○　**山室　民子**

一、制限案に反對します。如何なる形式に於ても制限される事は私共の恥辱だと思ひます。

一、男子より年齢を増されたり納稅要件を附されたり世帶主の制限を加へられるのは自治能力に差等を設けられることであり且普選の精神に背くものです。女子公民權の資格は全然男子と同一でよい筈と考へます。

一、選擧權を與へらるゝならば同時に被選擧權をも付加せらるべきです。

一、市町村會議員の選擧權及び被選擧權は勿論のこと道府縣會議員の選擧權並びに被選擧權の與へられんことを希望して止みません、しかし漸進主義を標榜する政府に現在これを期待することの可能性を危ぶむものです。とにかく市町村公民權を以て習熟したる後道府縣公民權を付與するなどゝいふ言分を聞くばかりでも殘念の至りです。

謂普通選擧であつて缺格條項に該當しない限何等の制限がないのに女子に限つて男子よりも年齢を增したり納稅要件を設けたり或は世帶主の制限を加へる事は自治能力に差等を設け普選の精神に背反するから男子と同一條件にすべきである。

一、女子公民權の性質

市町村選擧權被選擧權をも付與する

理由　女子に市町村公民權を認める以上は選擧權のみならず被選擧權をも認め市町村會議員になる權能を認めて自治に參政せしむべきである。

一、女子公民權の範圍

市町村會議員の選擧權並に被選擧權を認め道府縣會議員の選擧權並に被選擧權は付與せず

理由　市町村政は教育水道電氣瓦斯社會事業等婦人の協力に待つ點が多いのに道府縣政は必しも然らず、又婦人を自治政に參與せしむ事は自治制度上における豫期的の改革であるから市町村自治に參政せしめ之に習熟せしめた後道府縣政に參與せしむべきである（東日七月廿日）

久布白女史惜別會の記

いよ〳〵久布白さんを返す會が、七月五日の午後、麹町の富士見軒に開かれた。返すといふのは、つまり久布白さんが婦選獲得同盟總務理事を辭任されるのは、矯風會中に同盟創立以前からあつた日本婦人參政權協會に同氏を返すことになるのだといふ譯なので、一寸普通の送別會とはちがつた雰圍氣に包まれた送別會であつた。

＊　＊

集つたのは、中央委員を初め在京會員有志四十名。相不變黒い洋服の久布白さんを中央に、夏草を飾つた卓を圍み、石本靜枝氏の司會で、坂本眞琴氏が、開會の挨拶を述べ、市川氏から、事玆に至る顚末について逐一報告があつた上で、河崎氏から惜別の辭が述べられた。この惜別の辭中々ユーモアたつぷりで余り濕り氣なく大喝采。次に記念品の贈呈が了つてから當の久布白女史創立以來七年間の總務理事の椅子を退くに當つての、いよ〳〵最後の挨拶である。

＊　＊

大體は前號の聲明書の内容と變りなかつたけれど、最後に、特に久布白さんが思ひをこめていはれた言葉は、「婦選獲得同盟を倒すな。現中央委員を守れ」といふのであつたので、茶菓になつてから、出席者有志がこれに答へるいろ〳〵の言葉を述べた。

「久布白さんのお言葉を守つて、會員は幹部を必ず助けませう、」と英學塾の星野先生「今頃返すなど〻はをかしい。もう疾くに時効にかゝつてゐる筈」と會友の宮地氏。「久布白さんも生き乍らこれ丈惜まれゝば結構だ」とは舊い會員の大竹女史。流石に現幹部諸氏のは涙にくもつたのが多かつた。

最後に、金子氏が立つて、久布白女史の歸參はぜひないとしても、現下の婦選運動の趨勢に鑑みて、同志の奮起を期して會を閉ぢ、後前庭で記念撮影をした。



さようなら！　私たちの久布白さん

婦選團體の複數化

小泉郁子

昨日、偶然の機會から「久布白女史惜別會」と銘打つた會合の席に連つて少しく感ずる所があつたので、それを書かして頂く事にした。尤も私は最近、七年有餘の海外生活から歸つた計りの者で、日本及び日本の諸問題に對しては未だ門外漢たる事を免れない。由來、門外漢の批評と云ふものは兎角的を外れ易く當を得ぬものが多い。又批評そのものが讀む人の誤解を招き易い危險性があるので、門外漢は入門の許しを得る迄は沈默を守る事が至當だと心得ては居るけれど、然しその門外漢の所見にもたまには眞理がないとも云へぬ。通りすがりの者には利害打算とか左顧右眄とか云ふものがなく、立場が全々違ふ所に案外直覺的正確さといふものもあるし、他山の石も時には玉を攻くの用がないでもないと思ふので敢へて筆を執る事にした。

　昨日の會合は、本職を矯風會に持たれる久布白女史が多年婦選の爲に盡力せられて居たのが、元來矯風會にも存置せられてあつたといふ參政權運動部のリバイバルと同時にその方に復歸せられる事になつた爲で、集りはその名の示す如く惜別の眞情を吐露し盡された美しい會合であつた。人の功罪は棺を蓋うて定まると云はれるが門外漢は昨日の光景を見て、これ程惜しまれれば去る者以て冥すべしだと思つた。會のプロセスに就いては一々私が此處に記す必要はない、が、最後にあつた金子氏の感想談は特に私の心を牽きつけたので一言書かずには居られない。

　私は、それを單に金子氏御一人の意見でなくこの會合の大詰として、少くも婦選獲得同盟中央委員會の態度として聞くべく價値のあるものと思つた。氏は會員に客觀的批判力の必要な事を敍べられた。これは實に至言であると思つた。現代婦人の生活に必須缺く可からざるものはこの態度である。これなしにどんな企劃も運動も合理的な進展を見る事は出來ない。飽く迄冷靜に、客觀的に、聰明なる理智と精確なる實證の上に立つて誤らざる批判を下し且つ遠大の計を爲すと云ふ

事は、所謂科學的手續と稱せらるゝもので、何人にも無くてならぬ生活態度なのである。今門外漢が物せんとする複數になつた婦選團體側面觀と稱するものも實は斯うした態度を欲求する事から產れたと明言し得る。永い間 單數的、結束の一團であつた婦選同盟は俄然―極めて少時間の連鎖の中に―複數的三箇の團體と化した。つひ、先達、出現した同志會と今度その立場を明らかにした矯風會參政權部と、生え拔きの婦選獲得同盟との三つである。數は三つでも個々獨立のもので所謂ローマの三頭政治ではない、運動がうまく行けば三國同盟とか三國協定とかいふものになる譯だが斯うした外交史上の名目は今迄我々にあまりいゝ印象は與へてゐない。それが至難な業だからである。扨て新團體の發生とか、領袖の脫退歸還といふ現象は、昨日も多數の方々の御口から洩れた通り、一面に、會の發展とか擴張とかいふ風にも無論解釋出來る、が然し、極く平凡に門外漢が岡見をすれば、たとひ、その原因は何れにあるにせよ、それは矢張り團體の決裂といふ姿に先づ見えて來る、そしてその決裂の姿、新らしく現はれたもの、或は俄に起き直つたものゝ姿を見つめて行く事は全く無駄な事でないと思ふ。

門外漢には、同志會といふ新團體の性質が、詳細には知らされてない。然し所謂その新同盟組織聲明書なるものを讀んで見ると「穩健なる行き方」といふ事がその黨を律する基調であるかの樣に伺はれる。穩健といふ言葉は元來、それのみでは、意味をなさない。それは過激といふ言葉の相對的、比較的使ひ分けだからである。故に穩健と云へば反面に過激といふものゝ存在を豫想し肯定しない譯にはゆかない。それでこゝに問題となるものは、一體、何が穩健で何が過激だかといふ事である。所謂穩健を以て任ぜらるゝ御人の中には、婦選の運動者を目して赤いと云はるゝ向もあるといふ事であるさてこそ穩健といふ格別な色の出現が可能となる譯であらうが、然し今日の婦選運動を赤いと見らるゝ人々の心理はこの門外漢がまことに了解に苦しむものである。婦選には、御覽の通り、もう決勝點が見えて居る。もう峠は越して居る。もう一息で、もう一歩で決勝の號砲は鳴る。決勝點を乘取るといふ事に、今、異議異論のあらう筈がない。少くも門外漢には、さう見える。まさか、穩健派と稱せらるゝ方々が、此の際、過激派よりか、もう少し、ゆつくりと歩いて、過激派が標榜する權利の半分位な所で當分我慢をして置いて、全的獲得は、やがて時期の到來を待つと云つた風な落ちついた意見から穩健と名乘らるゝ譯でもあるまいと思ふ。否、卒直に、端的に云つて、むしろ、一分一秒を爭つて、所謂一番槍、先陣の名乘りを擧げたい熱望と焦慮とから、今回の分裂行動を執られた樣にも、門外漢には見える。もし、さうなら、穩健と稱せらるゝ方が實は過激なのである。もう頂は見えて居る峠は越して居る。決勝の圈内に入る可くもうたゞ一息だ。全

くの一息だ。尤もその一息はなまなかの一息ぢやない。飛躍が必要である。決死の勢がなければならぬ。綱は引かれた。最後の一と引き、勝つか負けるかは、戰鬪各員の結束如何にある。綱につかまる一人々々が自分の力が全黨の運命を左右するといふ自覺の下に最後の一と踏ん張りをしなければならぬ時である。僅か、五分か一寸か戰線を進めれば事は足りる而も、その五分或は一寸の進出には鬪員各自の全靈的の努力が要る。死力を盡した奮迅の勢が要る。問髪を入れぬ高度の眞劍さが要る。その間、一點不純分子の混入する事を許さぬ。今は徒らに左顧右眄の時でない。只管結束前進の秋である。婦選は誰れか特殊の人の榮譽利達の爲の手段でない。我々女性全體の幸福の爲に正に帶びるべき武器なのである。穩健者流は婦選鬪員を赤いと見る。笑止千萬だ。婦選は、赤くも青くもない。それは現代色といふ色だ。女性全體の保護色だ。外から塗付せらるゝ技巧の色でなく、何人も成年に達すれば當然帶びるべき自然の保護色だ。この自然の保護色が永年、紅や白粉で塗り穩されてあつたのを、すつかり剝がして、今その地下の色を出さうといふまでの事である。婦選の色は、內から發する理智が反映する燦たる白日の色だ。婦選の先進國たるアメリカでは多くの婦人問題が疾くの昔、問題たる事を失つて居る。それ等は、當然すぎる程當然な常識の範圍に入つて居る。その當然なものを獲得するために、今、我等に必要なものは唯々一色の旗、唯々一團の聲である。今の場合細工は流々でない。今頃、新團體の出現はナンセンスだ。門外漢には少くもさう見える。問題はあまりに近く決定的な處迄運ばれて來て居るからである。些細な感情といふものにこだはつたり、勝手な御都合主義を振りまはしたりして一團の結束を弛緩するの時でない。●

問題は自黨に歸還せられた女史に移る。女史は「一歩々々今から新らしく築き上げる」と宣言される、女史にして果してその餘裕と努力とがあらば、何故、既に出來あがつたもの、これとても自ら、育てられたと稱するものに全力を傾け盡されぬであらうか。門外漢は女史の告別歸還を見て、所謂「佛作つて眼を入れぬ」といふ憾みなき能はずである。見よ鹿はもう逐ひつめられて居る。今は唯々止めを刺せばよい處にある。桂冠は一個の風雲兒の頭上に落つるのでなくて女性といふ大きな全的存在の上に冠せらるゝのである。そこには女性の全的奮鬪が必要なのである。勿論我々には自我の尊貴がある。從つて言動の自由がある。團體の名に依つて個人の自由を妨害する事は正しくない。しかし目醒めた個人には自ら進んで多數の幸福の爲めに自我を制するだけの明はある筈である。此度の會合に於て河崎氏に依つて最初に用ひられた皿の貸借なる言葉は、はしなくも花を咲かせた話題となつた。即ち、女史は婦選が矯風會から多年借りた貴重の皿であるが今はそれを貸し主に返す時が來たのだと云ふわけである。門

外漢は思ふ。「貸した皿は貸し主に於てその價値を誇るべきでなく、むしろ、器の用ひられたるを謝すべきである」と。神は女史をかたくなゝる既成宗敎の團體から自由濶達の曠野に解き放つてその器を用ひ給ふたのである。門外漢は之を以て正しきクリスチヤンの信仰とする。「委員をもりたてゝ行け」「この團體の一人だにも缺けあらすな」と涙もて最後の遺訓を垂れらるゝ程ならば何故に止つて自らもその支持者・被支持者の一員たる事を肯じられぬであらうかと憾む。神の召がそこに無かつたと云はれゝばそれ迄であるが然し理窟はどうにでもつく、口實は何とでも作られる。法を盾に自らの所屬を決せらるゝ事はよい、然し、法は結極方便である。時の都合に依つて人爲に更へられて行く。律法に拘泥するパリサイ者流に對して神の聖者は「愛は律法を完うす」と宣言したではないか。婦選運動の今日は些細な法や名目に拘泥して有機團體の結束を破るの愚を敢へてするの時でない。門外漢には、どうも基督敎的立場からの參政權運動といふ譯がはつきり分らぬ。

然し、門外漢は、今もつと目を開いて婦選の母體を見つめそして云ひたい。「去る者を追はず、行く者をして行かしめよ」と、去らんとするもの、去りしものに對して徒らに戀々として居る時でない。今は鬪員の一人々々が猛反省を要する時だ。峻嚴な尺度を以ての自己省察が會員各自の心に働くべき時だ。「主よ主よといふ者の凡てが天國に入る事は許されぬ誠に婦選の精神を體する者のみが桂冠を戴くにふさはしきものであらう。金子氏の云はれた通り、不純なものはあつて甲斐なく、むしろ邪魔になる。正しき婦選の鬪員は今や篩ひ分けられなければならぬ時である。「視よキリストこゝにあり」「視よ彼處にありといふものありとも信ずるな」雷同は愚だ、禁物だ。群集の心理に氣がふれてはならぬ。我々は唯々婦選が産聲をあげたその最初の聲に聞き、最初の姿を見つめて猛進すればよい、婦選の母體は、徒らに會員を失ふ事をのみ憂ひてはならぬ。怖れ戰いて單に數の全からん事をのみ希ふの必要はない。要は純眞な祈りと全的の努力を捧ぐる人をたづぬるにある。

新らしき團體の出現、婦選團體の複數化は、門外漢から見れば、頭たらんと欲する分子の飛翔である。人の足を洗ふの眞義に徹底しえぬ分子の離散である。傳統的特權の惰性に即して大衆と同化しえぬ分子の動搖である。門外漢は再び云ふ「去るものを追はず、行くものをして行かしめよ」と。門外漢は會の決裂を悲しむ。然し、雨降つて地固まる。この機會が鬪員各自のより深き自己省察とより堅き團體結束の緣とならんことを只管に希ふものである。

新無產政黨全國大衆黨產る

七月三十日午後芝協調會館で新無產政黨全國大衆黨の結黨式が擧行された。

尤も新無產黨といつても新らしく組織されたのではなく、從來あつた三つの無產政黨が合同して新らしく全國大衆黨を組織したのであつた。

七月二十日前に於ける日本の無產政黨は圖解すると次のやうに分れてゐた。

右翼　社會民衆黨（代表者　安部磯雄氏）
中間　全國民衆黨（代表者　宮崎龍介氏）
　　　日本大衆黨（代表者　麻生　久氏）
　　　無產政黨全國統一協議會（代表者　堺　利彦氏）
左翼　勞　農　黨（代表者　大山郁夫氏）

無產政黨が多少の立場の相違で對立し相抗爭してゐるのは、非常な不利益といふので單一無產政黨（無產政黨を一つにする）組織の運動は始終行はれて來た。殊に本年二月の第二回普通總選擧後には、無產黨の代議士が八名から四名に減少した事で、急に、無產黨の合同がやかましく問題とされた。

然しそれはとう〳〵うまく行かず、結局前記の中間派といはれる三黨の間だけで話がすゝみ、全國大衆黨が產れることになつたのである。

從つて現在に於ける無產黨は

右翼——社會民衆黨
中間——全國大衆黨
左翼——勞　農　黨

の三黨に整理され、幾分前よりは統一された譯である。

×

全國大衆黨の中心勢力である日本大衆黨は昭和三年夏日本勞農黨、無產大衆黨、日本農民黨等七黨の合同して組織されたものであるが其後無產大衆黨系及日本農民黨系は脫退し舊日本勞農黨即日本大衆黨といふ狀態にあつた

全國大衆黨は、本年の選擧前に、社會民衆黨から分裂して一黨を組織したものであるし無產政黨全國統一協議會は各地無產政黨の聯合したもので、水谷長三郎氏の勞農大衆黨、堺利彦氏の東京無產黨等十政黨を含んでゐる

新政黨は二十日の結黨式に於て綱領、政策宣言を可決し、役員を決定した。

役員は

中央執行委員會議長　麻　生　久
書記長　三　輪　壽　壯
統制委員長　大　矢　省　三

顧問　堺利彥、杉山元治郎、高橋龜吉、松谷與二郎、高野岩三郎、山崎今朝彌、賀川豊彥

に決定した。

綱領は

一、我黨は勞働者、農民、無產市民その他一切の被壓迫大衆の利益を代表す

一、我黨は有產階級のろう斷する政治的經濟的、社會的、文化的諸制度を改革し無產階級の解放を期す

一、我黨は無產大衆の合法的組織力を以て之が目的達成のために鬪ふ

尙發表された政策の中特に婦人に關係あるもののみを揭げてみやう。

政　治

普通選擧の徹底（十八才以上の男女に對する選擧權、被選擧權）

勞　働

四、婦人及少年の夜間勞働坑內作業危險作業の禁止

社　會

一、男女の法律上、社會上の權利及機會の均等

二、婦女子少年の人身賣買禁止

十、實費診療所無料病院及產院無料託兒所の建設

尤もこの政策は各無產黨とも大同小異で殆ど同樣である。

×

合同した三黨の中、日本大衆黨には附屬の無產婦人團體即無產婦人同盟があつた。他の二黨には特に婦人團體はなかつたが、然し三黨が合同した以上、無產婦人同盟或はその名稱を變更するなり、或は幹部に新手が加はることによつて多少の變更を免れないであらう

勞働組合法案

現政府は、其の組閣後、社會政策審議會を組織し、そこで勞働組合法案を作成した。

この法案は五月の特別議會には提案しなかつたが、暮れの第五十九議會には政府案として提案すると言明した。

そこで特別議會後勞働組合法に關する論議が急にやかましくなり、政府の社會局案を中心として、勞働組合、無産政黨等の勞働者側と、商工會議所、工業クラブといつた資本家側から、それ〳〵賛否の意見が首相内相に提示され、新聞の紙面を賑はしてゐる。

勞働組合法の有無に拘らず、勞働組合といふものは、現在多數に存在し組合員三十二萬に達してゐる。そこで勞働組合法といふものは、この存在してゐるものを法律で公認するといふに過ぎない。

實は政府は、前にはこの存在してゐる勞働組合を承認しなかつた。大正八年十月ワシントンで第一回の勞働總會が開かれ、勞働者の代表を出席せしむるといふ際に政府は勞働代表は代表的な勞働組合の代表者を出席せしめることに條約で規定されてゐたにも拘らず、組合——友愛會——を除外して桝本某を勞働代表として任命したのであつた。

このために當時勞働組合から盛な反對運動が行はれたゝめ、勞働組合法を作成して組合を公認したとの説が唱へられるにいたつたのであつた。

將來勞働組合からは組合法制定の要求運動が行はれ來つたし、政黨に於ても組合法制定が一つの政策として揭げられるにいたり、第五十一議會には民政黨内閣によつて一度政府案として提出されたのであつた。

この關係上民政黨としては公約として組合法を提案する義務がある譯で、さてこそ政府案として提案せんとするにいたつた譯である。

政府原案に對して主として問題となつてゐるのは左の諸條項である。

第一條　本法ニ於テ勞働組合ト稱スルハ勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスル勞働者ノ團體又ハ其ノ聯合ヲイフ

條二條　勞働組合ハ前項ニ揭グルモノノ外組合員ノ共濟、修養、其他共同利益ノ保護增進ヲ目的トナスコトヲ得

第四條　勞働組合ハ規約ニ法人タルコトヲ定ムルニ因リ法人ト爲スコトヲ得

第十二條　雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇スルコトヲ得ズ、雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脫退スルコトヲ雇傭條件トナスコトヲ得ズ

第十三條　勞働組合ノ役員又ハ組合員ガ條件ノ維持又ハ改善ニ關シ勸誘其他ノ方法ニ依リ他人ヲシテ勞務ヲ停滯セシメ又ハ雇傭契約ヲ解除セシメ若ハコレヲ締結セザラシメタルニ因リ雇傭者ニ生ゼシメタル損害ニ付テハ勞働組合其ノ役員及組合員ハ賠償ノ責ニ任ゼズ

第十七條　勞働組合ノ行爲安寧秩序ヲ紊ルトキハ主務大臣ハ勞働組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

附則　團體交涉ノコトハ本法ニソノ規定ナシ

勞働組合無産政黨側では、社會民衆黨も日本大衆黨も勞農等も各〻其の黨の案を作

成して、政府に其の改正を迫つてゐるが、勞農黨及其の系統の勞働組合と其他の無產黨及其系統の組合との間では可成意見の相違がある。

即右翼及中間派の間には、日本大衆黨の提唱によつて、社民、大衆、全民、統一協議會の間に『組合法獲得無產黨共同鬪爭委員會』なるものが組織され

一、自主的勞働組合法の獲得
二、團結の絕對自由
三、ストライキの絕對自由
四、勞働組合政治行動の絕對自由
五、一切の資本家的勞働組合法反對

をスローガンとして活動してゐる。

共同鬪爭委員會のこのスローガンを具體的にいへば

第十二條を資本家が犯した場合、即勞働者が組合員であることを理由として解雇した場合には體刑を以て罰する規定を挿入せよ。

第一條、第二條によつて組合の目的が掲げられてゐるが、政治的行動も自由に出來るやう規定せよ

第十七條に於て內務大臣に都合の解散權を與へず裁判所の判決によることにせよ團體協約を別にせず同時に挿入すべきである

といふ主張をしてゐる。

これに對して左翼の勞農黨は社會局案は勞働者の保護法にあらずして取締法である現在の勞働組合には何物も與へずして、然も幾多の束縛を加へてゐるものであるとして從つて團結の絕對自由、政治的活動の絕對自由、罷業の絕對自由を要求してゐる。

然して右翼、中間派の態度及其の運動を目して、反動知な社會局原案を擁護してゐるものとして攻擊してゐる。

資本家側は

『この度の社會政策審議會の答申にかゝる勞働組合法案の內容は歐米にも見ざる過激なる階級的勞働組合法案であつて、このまゝ議會を通過して施行されることになれば、それは我產業に惡影響を及ぼすものであるのみならず、勞働者そのものゝ利益を阻害するものである』

との立場から、

第一條の目的は階級鬪爭をひき起すものである、第二條の目的こそ勞働組合としての本質たるべきである。政治行動は禁ずべきである。

第十二條は削除すべきもの、公益事業に於ては勞働爭議を禁止すべきであり、又罷業に對しての取締を挿入すべきである

等々と主張してゐる。

資本家團體が此程全國的に共同して政府に對して反對運動を起したことは嘗てないことである。勞働組合法の內容そのものより、資本家の此度の行動によつて資本家勞働者の對立をはつきりと社會に印象させたこと其事が、むしろ階級鬪爭を助長することになるのではあるまいか。

社會局原案は議會に提案される迄に可成の變更を免れまい。

どの點がどれだけ變更されるか、勞、資どちらの意見がより多く取り入れられるかは興味のある問題である。

其の推移に注意を拂はうではないか。

× × ×

◇‥第二回汎太平洋婦人會議‥◇

△

第二回汎太平洋婦人會議が、來る八月九日から二週間ホノルヽのプナホカレエヂに於て開かれる筈です。

第一回の時には、米國、カナダ、中華民國、フヰリッピン、ニューヂランド、オーストラリア、サモア、印度、印度支那、フイヂー、日本等の十一ヶ國代表者百三十一名が集りましたが今度は、さらに、メキシコ、南米、國際聯盟の代表者等も參加するさうです。

△

第一回の時は、かねて、世界平和の母として人々に崇敬されてゐるシカゴのジエーン・アダムス女史が司會しましたが今度はやはり米國のノヰラデルフヰアのリーヴス夫人に決定してゐます。夫人はさきに米國の兩親と敎育者協會の會長であり、現に家庭と學校の國際協會々長として活動してゐる人です。

△

今度の議題は、大體敎育、勞働、政治、社會事業、保健の各方面にわたつて、左のごとき諸問題が協議されるはずです。

▽敎育――姙産婦及び乳兒に關するクリニックス、幼稚園託兒學校、一般學校問題、家事經濟、公民敎育、補習敎育成人敎育等

▽政治――兒童福利に關する法令、婦人勞働者保護法令、婦人に關する法令、婦人參政權、婦人と政治等。

▽保健――姙産婦及び乳兒の福利施設、看護婦、齒科衛生哺乳、學校衛生、健康保險、病院等。

▽勞働――母親の勞働問題、工場内託兒所、職業補導、勞働時間、兒童勞働、男女同一賃銀、産業衛生等

▽社會事業――花柳病豫防、私生兒問題、運動場、兒童福利事業、リクリエイション、不良少年少女問題、失業問題等。

なほ、この他に標準生活と食料並に賃銀問題、活動寫眞なども議題にのぼるはずです。

△

今回出席する知名の人々は米國ではリーヴス夫人、農務省家事經濟局長博士スタンレー女史前シヤトル市長ランデス夫人等で國際聯盟からは婦人及兒童課長デーム・クラウデー女史が出席する筈です。女史は會議後日本訪問の豫定でしたが、多忙なる事を理由として中止しました然し、洩れきくところによればそれは表面の理由で、實は廢娼問題に關聯して日本政府が女史の來朝をあまり歡迎しないからだといふことです。

日本からは正式代表として定方龜代(保健)川崎靜子(敎育)齊藤みどり(社會事業)木村雪子(社會事業)副代表として花木ちさを、田中芳子、原山きよみ、市川たまの諸女史が出席され、定方氏を團長に、川崎氏を副團長に擧げました。

△

今度は主催團體である汎太平洋同盟から汎太平洋婦人會議を引きはなして獨立させると いふことが重大問題の一つとして協議される筈ですが、果してどのやうな結末になるか、日本のこれに對する態度はまだ日和見の有様です。

而して第三回の會議は第一回の時上海で開くことに決定してゐましたが、これもいづれになりますか。

△

今回の日本代表には、皆様すでにお氣づきの如く、議題の中でも最も重要な位地をしめてゐる筈の政治だとか勞働などの部門にたゞの一人の代表者もないのです。

汎太平洋會議の目的からいつても、太平洋をめぐる諸國民間の理解と友誼を深め、太平洋を中心として今後の世界平和の基礎を確立するといふのですからこの二つの部門の代表者のないことは實に殘念なことではありますまいか。

然し、第二回の汎太平洋婦人會議が、第一回よりも更に堅實に、しつくりと、落ちついた雰圍氣のうちに成功するやう願つてやみませぬ。

婦選戰線だより、その他

見わたしても一番活氣のあるのは、今月も婦選運動です。從つて前々月號の續篇のやうに記述しました。

◇婦人同志會のその後

前々號の婦人界展望欄に記した樣に婦選運動の一翼として誕生したといふ婦人同志會は、其後二回の小委員會を開いた結果七月五日午後四時から、一ッ橋帝國教育會館に第一回委員會を開きました。

まづ、決議機關として委員百卅三名、執行機關として幹事廿七名が、小委員會で已に選任され、その中から、常任幹事として、庶務に井上、吉岡の二氏、會計に山脇女史が推され、當日の協議として會報發行の件（當分年四回）その他が議せられた他に、ガントレット恒子氏の歸朝談、山桝代議士の「婦人同志會に望む」の講演があり、安達内相夫人、田中文相夫人などの閣僚夫人も出席して、中々の盛會でありました。

これで新團體の勢揃もなり、近く歩み出される筈です。

婦人同志會趣意書

婦人參政は今や世界の大勢であります。吾國でも婦人の政治的進出については、すでに輿論の一致してゐるところでありまして、どれ程の反對があらうとも、近い將來に兩院を通過するであらうことは、疑ひのない時代の動きであります。けれども、私共は、この婦人參政權の實現を、たゞ時代の動きからみて當然であるとして手を拱ぬいてゐられるでありませうか。

私共は玆に起つて、日本全婦人の聲を以て參政權を得ることに努力しなければなりません。そしてわが婦人同志會が生まれたのは、この目的を貫現するため、最も穩健と着實とを目標として飽くまでも女性らしい態度で婦人の進路を政治上に見出し度いといふ希望からなので御座います。

私共は參政權を、單に女性にも與へよといふ所謂同權論に立つて唱へるのではありません。勿論參政權は、婦人の地位向上に役立つものでありますがむしろ私共は、現代社會に女性の立場から男子と協力して爲さねばならない特殊の仕事が多々あることを信じ、その使命を果たすため、政治の力によることが必要だと思ふからであります。從つて參政權を得ることに努力すると同時に、絶えず日本全婦人に政治的自覺を促し、參政權の行使に誤りない樣正しく淸い一票を投ずる樣、充分の敎育運動に意を拂はねばなりません。

斯うして女性が政治に參與することは、社會の幸福を増進する上に、非常な力であることを私共は確信いたします。即ち婦人が日常生活と離し得ない道德、敎育、保健、關稅、物價といふ樣な文化的、經濟的政策について家庭を擁護する意味で婦人の立場は最も堅實な

ものであり、又兒童の保護、禁酒、廢娼、平和、政界淨化などについても婦人の演じなければならない役割は非常に多く、婦人の純心なる政治的活動を待つてはじめて政界の革正の如きも行はれることゝ思ひます。私共が參政權を得ることゝ相並んで敎育運動を强調するのは斯かる理由によるのであります。

玆に以上の趣意を明らかにし、日本の全婦人に訴へ、女性の政治的進出のために大同團結の成らんことを切に望む次第で御座います

團體的にこの同志會を支持してゐる櫻楓會では、六月廿六日の同會學生會員の例會を、「婦人參政問題に對する櫻楓會の態度」を問題として開き、家政學部、國文學部、英文學部、社會事業學部、大學部師範家政學部生出席、井上氏より說述の後、三組に分れて、質問研究を行つたが中心とされた問題は、「婦選獲得の要求は男女同權說を根抵とする所からの主張かそれとも女性は女性としての立場から、國家社會の進步幸福を增進する爲に要求するか？」で、「女性の地位向上の爲、人間生活の幸福の爲に女性が、女性の立場より政界に進出すべきだ」といふ結論に至つて閉會されたやうです。

尙同會が今度、八月二日より十二日迄輕井澤に開く、第二回夏期大會にも、同會本年度四大要目の一として、婦選問題を揭げて、研究する筈ださうです。

東京女高師卒業生團體の櫻蔭會に於ても、七月末の本年度總會に於て、婦選問題が協議される筈で、そこで、同會の團體としての態度が決定されるやうに傳へられてゐます。

吉岡氏の統率する至誠會では、同會の組織の上に特にまだ取り入れられてはゐませんが、機關誌「女醫界」七月號紙上に於て、「婦人同志會組織さる」の題下に櫻楓會と同樣女性としての政界進出の必要をとき全日本婦人の同志會參加をすゝめて居ます。所で、この文章を讀むと特別議會に於ける婦人公民權案の貴院に於ける成行は、上程者たる朝野兩黨が人氣取り的でまじめな態度を缺いた爲、「政府も亦この空氣を察し、その方針を定めたのである」事が一。二には、當面の婦人の大多數が無關心であつたと共に運動者の婦人中に過激、危險のものがあり、眞面目さ、敬虔さに於て不十分のものがあつた爲に、「上院議員や政府當路者に危惧の念を感ぜしめた」ので、「握り潰しは原因彼にあるに非ずして、多くは我にあるといふ感が强い」のださうで、それだから、今後運動を「婦人の地位向上に注意せしめる丈の效果はあつたかも知れないが、他面矯激なる態度は、一般世人をして顰蹙せしめ、恐怖せしめ、却つてこれを阻止するの嫌があつた」急進派に任せておく譯にはゆかないから、「この間著々

婦人の實力を向上せしめる事に努めて來た」實力派の進出が必要な所以で、今後に於て婦人の權力が付與せられるとすれば實にこの溫健なる實力派を目標としてゞあらう事は疑ひなきところである。」といふやうな事がかなり多く述べられてあり、婦人同志會は「女流教育家、主婦其他穩健なる婦人團體を以て、これが組織員とし、婦人大衆をして安んじて婦人に權力を付與する事に贊成せしめんが爲に生れ出たものであつて、大に吾人の意を得たところ」「吾人は將來諸種の婦人運動はこの一點に集中し、過去數年乃至數十年間に試みられ而も多くは目的を阻止するが如き結果に到達してゐた女權獲得運動の最後の結實を此處に求めんとするものであると」し「此の團體の出生は啻に婦人のために慶賀すべきのみならず、國家將來の爲に欣幸とすべきところ」と强調してあります

穩健派、實力派といふのが、この會の旗印であり、この派の主張は「女性は女性としての立場より、政治に參與しやう」といふのにあるやうですが、これは全く新しい主張ではなく、「女醫界」氏のいふ今日迄の女權獲得團體の大部分が、何れも掲げて居るモットオであります。

然しそれらの事實より何よりとにかく今迄の運動は、男女同權の女らしくない運動だ、我々こそ日本の女らしい婦選運動を確立せねばならぬと、勢込んで居られる樣子は、次の例でも明らかです。

同志會の實務者の一人として就任された櫻楓會の大濱英子氏は、舊社會民衆婦人同盟役員でありますが、同氏が櫻楓會に於ける婦人參政權問題研究會で述べられた「婦人參政權の思想的背景」中にはウオルストン・クラフトの女權論、エレンケイの母性主義、ベーベルの社會主義婦人論の三つが引用され、最後に氏の意見として「まだ參政權を得てゐない今日それを要求し、又獲得運動をするに當つて、どの思想をどう取りいれ、又現代の要求する精神をどう加味してゆくかゞ先づ第一の研究問題であらう、殊に日本には日本に應はしい要求と 日本の女性に獨特な特長がある。私共は斯うした私共の環境を考へ、その上にしつかりした思想を建設せねばならない。」云々

◇他の婦選團體と運動の近狀

櫻楓會内の日本婦人參政權協會では久布白落實氏の婦選獲得同盟より復歸後、これを會務理事に推し、會計理事はガントレット恒子氏、議會運動委員長には千本木道子氏就任、名稱にも基督教の三字を加へて陣容を備へ、今後の運動を期する事になりました。

婦選獲得同盟創立以來五ヶ年半「後援的立場に於て中心勢力を有形無形に獲得同盟に注ぎこんだ結果、阻害されたそれ自身の發達も」今や完全に恢復せられる筈ではありませうが、一方矯風會の大項目、廢娼運動の日にまし激成せられてゆき、禁酒、平和の運動に於ても、益々多事なる今日、矯風會幹部の人々が重任する婦選運動が、例へ範圍は基督教界内と限定せられるとも、どの程度に伸びるかはかなり問題とされてゐます。

婦人參政同盟は、同盟幹部の人々が、家庭、或は事業に逐はるゝもの多く、近時餘り振はぬ爲、獲得同盟への合流說も行はれてゐますが、理事長河口愛子氏は婦人同志會に參加してゐるので、同會としては、存分の活動が出來ない乍ら、尙暫らく存續すると見られてゐます。

以上の從來よりある三婦選團體では、七月廿日政府の制限公民權案の次議會提出の情報を得るや否や、協議の末、從來の如く、聯合運動を起すべく、新團體婦人同志會をも誘ひ、廿三日、矯風會に於て協議會を開催しました結果、四團體共制限案には絕對反對の申合をなす事が出來ました。

但し共同聲明書の提出に當つては、婦人同志會は、團體として委員會開催の上ならではといふ理由で、當日の參加を否んだ爲、殘りの三團體で、これを提出する事になりました。

婦人同志會の右の不參加が、果して手續上の問題であるか、或は、單獨行動に出づるのが本志か、或は、制限案にもある場合屈服するのではないかといふ事は三團體間に於て目下種々注目されて居る點でありますが、もしも、制限案に妥協のやうな態度を執る事があれば、これは正しく共同戰線を破るものであり、婦人大衆の敵と目されても止むを得ないものでありませうから切に同會の反省が祈られる譯です。

とにかく暑中より秋にかけて、三團體の聯合運動は、從來の經驗に照して大に行はれる筈ですが、百卅人の委員を擁する同志會では、委員會開催も何れは初秋の頃となるとされてゐます。

又一方大阪に於ける全關西婦人聯合會も、この共同鬪爭への參加は、未決定で單獨運動としては、一、制限案絕對反對、二、請願書の來議會提出運動、三、關西各府縣に於ける講演、四、各代議士夫人選擧區別運動と、今秋の方針を已に決定今暑中より已に運動開始の豫定であります。

◇地方の婦選運動

以上の諸團體の中央に於ける割據的情勢は、勢ひ地方にも分布するでせうが、地方には又地方單獨の婦選運動の勃興する氣運も、これ亦前々號報導通り、漸く著しい樣子です。

熊本婦人參政聯盟（縣下三十一團體五萬五千名）では、十七日安達内相下縣に際し代表二十五名が、左記の陳情書を差出し、婦選獲得同盟熊本支部代表遠山うて夫人が、これが趣旨を說明したが、内相は一々團體名をよみ上げて、代表の首實檢をした上で、代表の意見を徵し、自らも中央の實情抱負を述べ、隔意ない會見に成功をする事が出來ました。

お願ひ

今般内務大臣閣下御歸縣に際し私どもの多年熱望せる婦人公民權附與の件これまで屢々衆議院には御提案になりたるもいつも委員會または貴族院にて握り潰しになりをりますれば政府より御提案にならざれば到底目的を貫徹することは覺束なきやう思ひますれば今回は是非とも政府案として今期の議會に提出に相なるやうに御取計らひ下されたし、萬一今回も機を逸すれば今後六ヶ年を空しく待たねばならぬことゝなりその苦痛は私ども婦人の到底隱忍し能はぬところであります、是非この際特別なる御同情をもつてとくと御考慮を煩はしたく、こゝに縣下各婦人團體および有志署名の上お願ひ申上げます。

保守で名高い熊本婦人を動かしめた導火線は、去る二月の婦選獲得同盟の選擧革正演說會で、爾來同會支部設置問題を中心に、熊本市主要婦人が、或は座談會に、研究會に會同して來た結果で、今後も公民權獲得の爲に大に努力するやうに傳へられてゐます。

婦選獲得同盟によつて開拓された北陸地方では、今秋を期して金澤支部が創立一周年記念に、北陸婦選大會が催される筈であり、新潟、柏崎、富山、福井等よりも參加の豫定ですが、同時に亦、同支部幹部は、七月十九日縣下大聖寺町遊說を初め、縣下遊說に酷暑の下を奔走してゐます。

◇無產婦人團體の動靜

同じ婦選の目的を掲げても、立場を異にする無產婦人團體の昨今は、社會民衆婦人同盟が、母子心中頻發の時態に鑑み母子保護法制定運動を起し、六月廿三日内相に決議を掲げて迫つたのを初めとして生活費輕減鬪爭に移りつゝあります。

六月廿一日の同會第二回全國協議會で本年度の役員は、山田やす子氏が中央執行委員長に再選し、中央執行委員には、赤松明子、常子二氏の他、阿部靜枝氏なども加はりました。

名古屋、大阪にも支部が組織され、近く下關にも設けられる筈で、この會も大に地方に進出の勢を示してゐます。

新に無產黨の合同が成立して、全國大

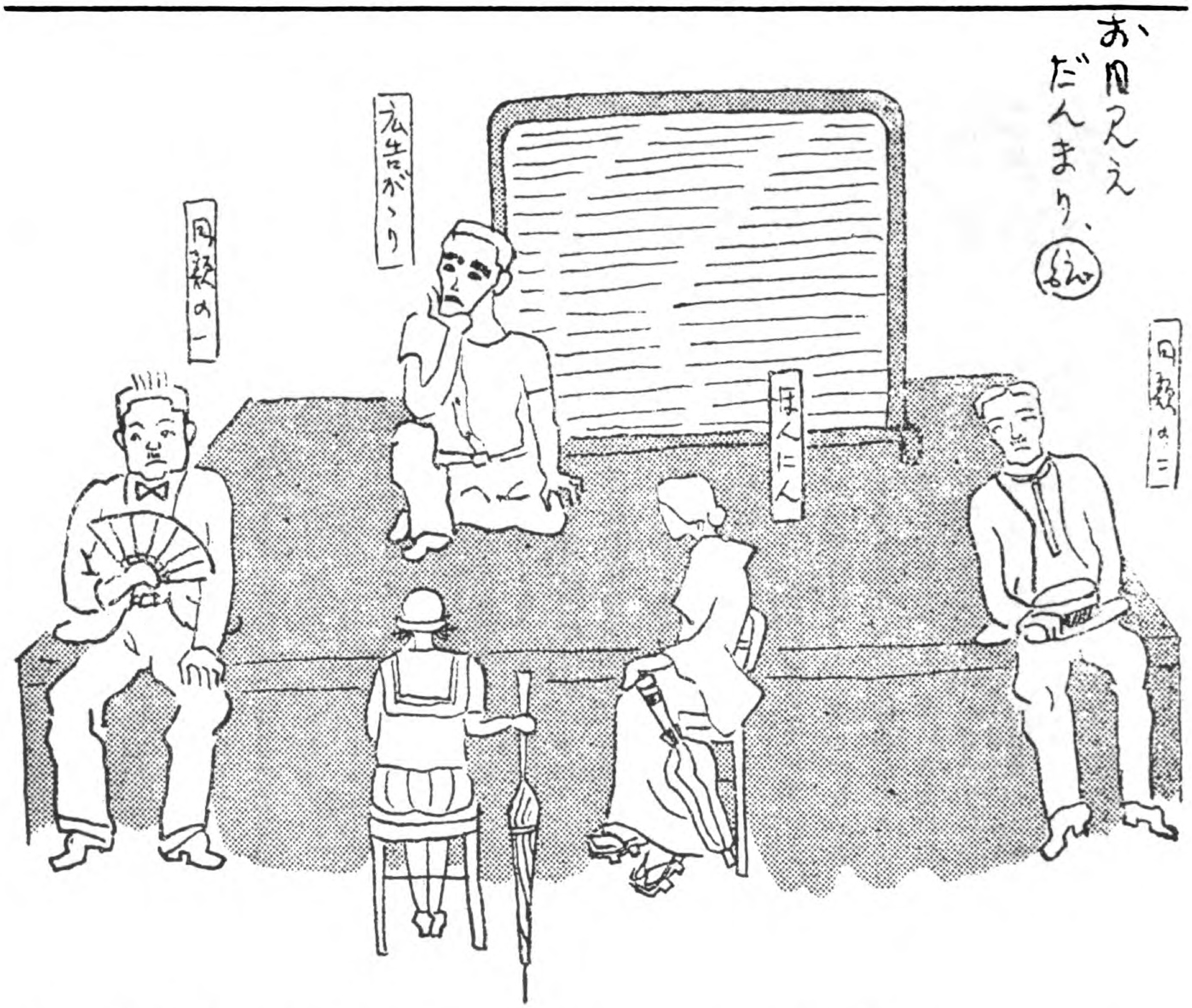
衆黨が出現しました結果、舊無産婦人同盟と、舊全國民衆黨系の婦人たちとの間に合流の噂もありますが、前者は菊川靜子氏退き、織本貞代氏勞働女塾の仕事に精力を集注してゐる現在では、岩內とみゑ堺眞柄氏等が主であり、後者は宮崎白蓮氏が中心と傳へられてゐますから、どんな合同が成立するかは、判然しません。

◇婦人の國産奬勵運動

國産愛用は家庭からの標語の下に、例の內務省の勤儉奬勵婦人委員會の幹部婦人を中心とする愛國婦人會以下都下百三十五婦人團體は國産品愛用奬勵講演會を七月十二日午後東京市公會堂に於て開き、各宮妃殿下の台臨を仰ぎ、本野久子氏司會の下に井上秀子、松平俊子、兩氏と俵商工大臣の講演がありましたが、全關西婦人聯合會でも國産愛用の實際運動を大阪朝日新聞社と提携して開始して居り、今秋第二回經濟大會を催す豫定との事です。

これらは昨秋以來、現內閣が婦人に對してよびかけて居る明らかな反應とも見られるもので、現內閣に對して批判的な態度を保ち、況んやこれと抗爭しやうとするものは、無産婦人團體以外には全く稀であるのが、婦人界の現狀であるといへませう。

政治を批判する力がなくては、正しい婦選時代の出現も危まれるといはれても仕方のない現實を我々は僞らずみる必要があるかもしれません。



廣告取り

モリ・コウ

フサエさんが口を尖らして「兎も角今年の豫算は、月××圓だつたんだから」と、切角士氣を鼓舞するのだが皆押默つて、そつと胸の中に溜息を洩すだけである。

何がかくも皆を内氣にさせるのか。他でもないそれは、廣告取りなのである。なぜならそれが取れる取れないは直ちに、我等の守る「婦選」の浮沈に拘るところでありながら、なか〳〵おいそれとは何處でも呉れやうとしないからである。さて書出しはこれ位として、一日私は出掛けたのである。フオツクステリヤの代りに、小さな妹を連れて「オコウチヤンこゝでしよ。」——なるほど、もう先客がある。一樣に髭を生やして黑アルパカに麥一文字。男ではあるが目的に於ては同類。競爭者があつては一寸緊張を感ずる。見覺えのある達摩眉の（これはお世辭眞實はもつと別種である）廣告係りが懶さうに出て來た。暑さは下さる身にも頂く身にも、平等に影響するところが嬉しい。

「談判ですか。」いきなりさう言ふ。

「何時ぞやは失禮致しました。御無沙汰致して居りますが何時も廣告有難う存じます」

「え、いえ、」

「何ですかあのもう頂けないとかつて眞實でございませうか最初から一年のお約束でしたから、私の方も其のつもりで料金をお引したのでございましたが。」

「あれはやはり××圓ですか、高いですね××圓か×圓が相場

でせう。尾久山さんとこなんかもさうですよ。」

「おや高うござんすか、でも値だけの廣告ヴァリウは持つてるつもりですよ、尾久山さんとこなんか個人雜誌みたいなもんで從つて發行部數の見當もつきますが、兎も角私の方は相當世間からも信用されてる團體の仕事です。地方の支部も盛んに出來ますし、どし／＼開拓してゐますからふえる一方です。」

「ハハハハ尾久山さんは婦選なんざあつていふし、あなたの方では又さういふし、ハハハ、どつちを信用していゝんだか。」

當然なす可き辯解をしても、此の場合商賣敵きの言ひ草以上には取られない。しかも相手は現在ゐないのだから、殘念でも私がはしたないことにならなければならない。黑アルパカも確かに忍び笑つた。

「ではもつと料金を下げれば、引締き頂けるんでございますか。」

「さあそれが、今度上半期の決算をして小さなものは全部やめにしたのですから。」

「でも隨分一面に出していらつしやいますね。よくあんなにお出しになると思ふほど」

「皆さう言ひます。しかし婦選なら婦選とは一對一ですが、全部では一對何十何百ですからねそれに正直婦選の様な堅い雜誌にはどうも、白粉の廣告を載せても實際効果はないです、見る人は大抵知識階級の尖端婦人ばかりで、さういふ人達はまあ何方かと言へば、お化粧などには無關心ですからね。」

「さう被仰ればまあさうですが、今時クリーム位つけない者はありませんわ。何れにしても廣告である以上、廣い方面に知られるほどお宜いんでせうから各方面に出して、各方面の人に名を覺えられるといふことだけでも一つの効果でございますわね。さういふ意味から私のとこなども、堅い雜誌といふ一つの種類として、仲間に入れて頂く資格はあると思ひますが、オホホヽヽ。」

まさかアハハハとも笑へない不味いことには私の顔には少しも白粉氣がないのである。こんな素面で化粧品店へ廣告取りに來るのは氣が強過ぎるかな。しかし苦笑してゐる相手の顔で讀めた、少しは動いてゐる。

「隔月なら頂けますか。」

「えゝ、隔月位なら出來ませう」

「そして、御主人の御意向もさうなんでせうか。」最初快く吳れたのは主人であつた。

「さうです勿論主人の意見です。實は此の間尾久山さんが談判に來て、婦選に出すなら私の方へも是非出せつて、ヘヘヽヽ」

「尾久山さんて方は廣告取りが樂しみだつていふ位の人ですからね。それで？」

「あちらも隔月です。あなたの方とかはるがはるで都合がいゝのです。」

「ほう、私の方が先で尾久山さん眞似して後から來て、完全に割込みましたね。」

「あなたの方が先でしたか。」

「えゝさうですとも、あの時はつきりと一年約束して下すつたのに後から割込みをさせた爲に中途で變更なさるなんて殘念です。」

「でも私の方でも、さう／＼婦選のいふ通りにもなつてゐられない。」

「ホホヽヽ、それはさうでせうとも、では隔月に頂けるとして八月は如何でせう頂けると大變好都合でございますが。」

「八月？八月は駄目です。九月十一月といふわけですね。」

隔月にもしろ貰ふには貰つた然し割込まれた無念さが殘る。蹴飛ばしたい小石すらないアスファルトの道の貧しさ。



實際運動といふもの

金子しげり

□

新聞記者に泥探といふのがある。足を泥にして探訪して歩くといふ意味で、新聞記者は決して頭腦だけでは出來ない、誰でも一應は泥棒修業を積んで來なくてはならないとされてゐる。

實際運動もこの泥探に近いものだ、と、私はいつも思つてゐる。

勿論婦選運動に限つた譯ではなく、一般に實際運動といふものは、地味で、骨の折れる、所謂悧巧な人の、決してやりはしないものである。

所で、世の中では、どうかするとこれが全く見當ちがひに甚だ派手な、割のいゝものに考へられてゐる事があり、その誤つた觀測から生じる悲喜劇が、絶えず實際運動者の周圍には展開される。

勿論それは、實際運動に對する無智から來る。

Iの話

ある地方の講演會に臨んだIは、會後の懇談會で、主催者側の婦人の一人から、次の樣な質問を受けた。この人は土地柄、婦選なんかの會合には中々反對の多かつたのを、押切つて開く事にした功勞者であつた。

——何しろ先生方の事を、あの人達は、職業的運動者なんだからとか、どうせ、婦選で食べてゐる人なんだからとかいふのには、本當に癪に障りましたよ。ですが、先生方は本當に、會から何にもお取りにならないでお働らきなんですか。

Iは次のやうに答へた。

――勿論私は一文もとつてはゐません。私自身は何でたべてゐるかと仰有れば、原稿料なんかでどうにかやつてゐるので、勿論それでは足りないから、時々兄からも小遣を貰ひます。

然し、會の事務所に働く實務者たちは、職員として俸給を取つてゐます。最低限度の生活費がやつとゝいふ位ではありますが――。

するとその婦人は、Iの話を抑へるやうに、

――ねえ、皆さん、I先生は、一文もおとりにならないで全く奉仕的に、日本婦人の爲に働いてゐらつしやるのですつて。それを職業的だの何だのつて、本當に失禮じやありませんか。I先生は、決してあの××會のT先生の樣に會から月給を貰つてゐらつしやるのじやなかつたのですよ。

一同もその婦人の言葉で安んじたやうに、再び尊敬をこめてIの顔を仰ぎ見たのである。

所でこの場合、Iが、實務者として、俸給と名づけるものを取つてゐたら、この光景がどう展開してゐたらうかといふ想像は、讀者よ、相當に興味あることではないだらうか。

Yの場合

ある時會員のXが、新入會員の會費を持參して來て實務者のYにいふのに、

――私今日は隨分肚が立つたの。Aさんてば、この前維持會員になりますつていつておき乍ら、其後B女史の話を聞いて、一圓の正會員に格を落したのよ。何でもB女史が、どうせ會費を澤山拂つたつて、彼の會のYさんやIさんに食べられて了ふんだから、十圓の口に入るなんて事は要らないわといつたんですつて。いふB女史もB女史なら、聞くAさんもAさんだわ。

そこでYが笑ひ乍らいつた。

――困るわね。とにかく私は食べさせて貰つてゐるもの。

――だつて、そんな事當り前じやあないの。人間一人を朝から夜まで働かしてさ、その人の生活費位出さないでどうするの。霞をたべていきられやしまいし。それにあなたがいくら取つてゐるといふのさ。〇〇圓位で今日生活なんか出來るものですか。會がもつと財政的に確立して、働いて貰ふ人達には、もつと何とかして上げられなくちや、いゝ仕事が出來やしない位は解る者は解つてゐるのよ。

――所で、解らない人の方が多いんだから、大に肩身が狹い事よ。

Yは、前項のIの話を思ひ出し乍らいつた。

――駄目、駄目。そんな事くよ〳〵せずに、大に元氣を出して働いてよ。何しろ私達は、家もあり、子供持ですもの志は大に負けない積でも、中々體の方は自由がきかない事よ。その私達に代つて、かゝりつきりにかゝつてゐて頂くあなた方が元氣で働いてゐて下さるのでなくちや、私達はまるで張合がないじやないの。

――ほんと、ごめんなさい。それは私にもよく解つてゐて自分で飛び込んだくせに。

Yは、朗らかなXの態度の前に、今はわだかまりなく笑ふ事が出來るのだつた。

Mの經驗

新に幹部役員の一人となつたMが、會員を作る爲に、大分あちこち歩き廻つた揚句の話。

――今日は面白い目にあひました。舊い學校友達で社會事業家のS子さんに入會をすゝめたら、その云ふ事がいゝじやありませんか。これがIさんやYさんの樣なもう已に解放しつくされた方たちからの勸誘なら、入りませんけれどあなたみたいな、純然たる家庭の奥さんから、いはれたんだから大に入りませうつて。これじやあ誰の爲に入るのだか解りませんわねえ。

――でもどんな入り方でもいゝですよ、一人でも增えれば

Iはいつたが、Yは默つて笑つてゐた。

HとIの會話

會友のH氏が上京した節に事務所を訪れた。Iは、洋服の兩袖をまくり上げて、謄寫版刷りの眞最中である。

――あなたがこんな事迄するのですか。

外國に長く暮して彼地の婦人運動なんかにも興味を有つてみて來たH氏は、なりふりかまはぬIの恰好をみ上げ乍らいつた。Iは無言で微笑んでみせた。

――どうも新聞や雜誌では天晴婦選の御大も、こういふ雜務までやつてゐるんじや、中々大變でせう。

――大變は大變ですがね、矢張りやらない譯にはゆきませんし、やつた方が結果はいゝですよ。

――そりやさうだ、然し、精力に限りがありますよ。矢張り體が唯一つの資本の組なんだからね。

――本當です、そう思つてそれだけは氣をつけてゐますが何しろ、何もかもやる他ないんです。重要な事は勿論皆會議で議決されますがね、實行といふ段になると、こんな數人の實務者きりゐないのですから、私も失業してはまりこんだきり、こゝから浮べなくなりました。

——財政の問題もありませう。
——勿論です、この頃は毎月金策にも出かけます。廣告とりもやります。何しろ年一圓の會費では二千人の會員だつて三ケ月しか暮せませんから。
——會費を上げたら。
——でも日本の婦人にとつては、年一圓以上は取れませんそれでさへ、定期的に督促すると、必ず退會を申出すのが六七人はありますからね。
——それじや、誰れの爲の會か分らないな。
——まあさうですね。尤もそんなのは入る時義理で入つたりする連中で、本氣なのは、小學校の先生でも毎月の俸給日に、拾圓づつ送つて來る人もありますがね。こんなのは貰ふ此方が辛くて、辭退したら、あべこべに叱られた譯でしたよ。
——日本じや女の經濟力が乏しいから、寄附なんか、家庭の婦人からは特に取りにくいでせうね。
——えゝ、會費だけで會の經常費の支えられる時期がくればいゝのですが。
——然しあなたなんかゞ、そういふ雜務に時を費してゐては惜しい。といつてビヂネスといふ事については、日本人はまだまるで子供だからなあ。いや、だがもう先は見えてゐますよ。まあしつかりやつて下さい。我々からもお願ひする。

この會話の間も、Iの手は休められなかつた。終にはH氏の手も無意識に刷り上つた紙を重ね揃へてゐた。

□

婦選運動の如き實際運動に於ては、中心となつて第一線に働く婦人が、家もち、子もちの普通の女の生活から幾分でも遠い時に、それは必ず、彼女たちの働らきを相殺する力を有つ。

職業婦人、獨身婦人の參加が所謂女らしい女の運動から距離があるげに思ふ人が尠くないのだ。

そして更に惡い事は、奉仕とか、獻身とかに絶大な尊敬が拂はれ、買ひ被りが行はれ、實務者を有給にする事だの、他に仕事をもたずに專門的に運動に從事する事だのを、正當視出來得ない人々の多い事だ。

勿論これらの誤解は先にもいつたやうに、實際運動をどんなものか分らない所から多くは來る。

私にいはせれば、實際運動は事務、事務、事務の堆積以外の何ものでもない。

それらが如何によく處理され、按配されるかによつて、實際運動は退きもすれば進みもする。事務卓を前に、リーダー達が、その日、その日の仕事の切盛をする時に鬪爭の成敗は自ら決定される。

たとへば、われ／＼の婦選獲得同盟事務所では、まづ二千の會員に對する事務として、入退手續、會費の收納、名簿の整理などがある。『婦選』の刊行、會報の發行もある。一ケ月三十日に割りあてゝ、何れの日も仕事のない日はない。

各委員會の活動による各種の仕事は、勿論この外にある。

『婦選』一つの發達にも、二千枚の帶封かき、スタンプ押し縣別分けなど、數回の手數を要する。一回の內相訪問も、代表のみの行動でなく、各新聞社との連絡等に、事務所全體がその時間中は同じ仕事に制される。更に亦その外に、毎月のくらしむきの握飯作りがある。

從つて夏が來ても事務所は閉す譯にゆかない。事務の人々が代りあつて僅かな休暇をとる事はあつても、仕事の方は決して夏休をしないから、出す丈のものは出し、片附けるべきものは片附けねばならない。

それには、時間の餘裕のあつた時手傳つてくれる有志や、家もち子もちの體で奉仕してくれる中央委員だけでは、どうしても人手の方が斷續的になるから、常住の仕事を處理する爲には、數人の實務者なり、所謂職業運動家といはれる迄この仕事に沒頭しきりの人々が何人か絕對的に必要となる。

殊に、議會運動の季節でゞもあらうものなら、事務所の執務時間以外の活動が、非常に多い。事の進行狀態に應じていつでも出動準備が整へられてゐなければならない。各部署についてゐる人々との連絡役が又大難事である。等等等、四六時中、婦選の爲に沒頭しきる人間が、否應なしに要求される。

これこそ實際運動の實相なのである。

勞働運動、社會運動の鬪士たちにしても大體似たりよつたりであるらしい。

玆に於てか、成るほど封建的な因習ぶかい男子政治家を說くに、家庭婦人の婦選運動は効果あるかもしれないが、實際問題としては一人も有給の實務者なき團體運動は到底組織統制ある運動ぶりを示す能はないし、例へ職業運動家のそしりが在つても、現在迄のリーダー達が敢然とその位地について來た所以が嚴存するのである。

勿論この場合にも、背後にあつて、前線を支える人々に、多くの家庭婦人のある事は、いふまでもないことである。

本部の日記より

六月廿六日（木） 會員の大内さん、高橋さんが會費を持參される。殊に大内さんは、水ようかんと櫻桃のおみやげまで持參で、しばらく遊んだり、手傳つたりして行かれたので、皆々大喜び。

維持會員一、正會員三の入會がある。

同　廿七日（金） 市川理事、朝から小山たき氏を訪問、特別維持會員に昇格に成功して歸る。そして又すぐ久布白氏の件で、竹内女史宅へ。午後一時から出版委員會、三時半から財務委員會、六時半から中央委員會とけふは立てつゞけ、尤も金曜日はいつでもこれだ。

同　廿八日（土） 小泉さんが×ｘ博士の許へ集金にゆく。定時寄附のくせに、貰つて來た小切手には、甚だ迷惑だから、今後は、といふ斷り手紙がついてゐる。誰も無理にとはいはない、同じ斷るにももう少しいひ方もあるものをといふ事になる。

婦人毎日—記者が來て歸ると、會友の大谷さん久連から御上京で訪ねて下さる。チヨコレート一箱御みやげ、大に運動の實狀をきいて貰ふ柳八重子氏、藤田たき氏、入れかはつて來訪、昨日に代つてけふは接客デーだ。

聯合印刷から封筒一萬枚屆く。

小林珠子氏から、特別維持費第二回分が屆く。けふは入會二、退會二。

同　三十日（月） 兒玉さん、小泉さん、廣告料の集金に忙しい。わづかな廣告でも、とにかくまとまると相當の收入だ、だから雜誌は有りがたいといひ合ふ、野津さんは野津さんで、定時寄附者の許へ、とにもかくにも月を越す。

××學校のＨさん、久しぶりに見えたと思つたら、退會屆を持參、昨年暑中のガスの運動にも、街頭にたつてあんなに働いた人だが。

七月　一日（火） 今月から兒玉さんが本部會計の實務に當る。久布白さんの惜別會が、五日と決定したので、東京市内外の會員、會友へ通知狀發送。會場は會友の遠藤氏に願つて富士見軒。三時から議會運動委員會。

七月五日（土） 午後二時から富士見軒に久布白氏惜別會。その折の臨時中央委員會で新理事選擧があつた結果、總務市川、會務河崎、會計坂本と決定。

夜は銀座信華に、中央委員だけの送別晩餐會があつた。

久布白氏への記念品は家具がいゝだらうとの事、それもお好みに任せるといふ譯で、目錄へは、若干と河崎さんがかいた。

同　六日（日） 急にあつい。午後二時から英學塾の星野先生宅で塾關係の會員のもより會が催された。本部からは市川さん、渡邊さんに金子さんは坊ちやんづれで出席。

星野先生や藤田さんが御手製のおいしいサンドウヰッチに冷い紅茶を頂き乍ら、種々な質問も出て、運動の實狀についてよく話す事が出來て皆大喜び。熊倉さん、大坪さん、高橋さん乘杉さんなどの若手は片端から調査委員に申込まれた。

同　七日（月） けふはくもりでとても涼しい。午後二時から英學塾に國際聯絡委員會と共同主催で、汎太平洋會議出席者の送別會が開かれるので、市川、金子二氏に、野津さんも手傳ひにゆき、その腕なら受附係を商買に出來るといはれる。夜臨時中央委員會。鈴木さんお子さん疫痢で入院の由。

けふは朝から七夕樣ねえといひ乍ら、都合よくお天氣ももつたのだけれども、ついそれらしい事もなしに一日すぎて了つた。

入會正會員五。

同　九日（水） 午後一時から文化學院に理事會なので、その前を坂本理事出所、兒玉さんと會計事務の打合をする。

同　十日（木） 細雨しきりに降る中を、金子さん今夜京都の講演をすませて鳥取遊説にゆくので朝出發。同じく鳥取へゆく河崎さんは夜立つ。

ガントレット恒子氏來訪、聯合運動の件で市川氏と會談。

同　十一日（金） 柏崎の田中さんから十一名の新入會員を紹介してくる。いよ〳〵同支部の發會式も明後日と迫る。

鳥取の講演會も今夜だ。河崎、新妻、金子

の三氏だから、講師に申分なし、盛會を祈る
　今日も來訪者多し。夜藤田氏宅に調査委員會、委員の勢揃ひなり、分擔も出來た。
同　十二日(土)　山陰遊説はけふは倉吉町の筈。市川、渡邊二氏は今夜柏崎へ出發。
入會四、退會一。
同　十三日(日)　今日は柏崎支部の發會式と、米子市講演と、婦選の旗は裏日本に二ヶ所も翻つてゐるのだ。
同　十五日(火)　渡邊氏歸京、市川氏は刈羽郡女子青年團で講演の爲滞留。
　木村鷦井夫人死亡に付退會通知來る。大勢の會員だから、月に一人位は必ずかういふ通知が來る。遙かに哀悼の意を表す。
同　十六日(水)　市川氏歸京、議會共同運動の件に付ガントレット恒子氏を訪問、市川氏玉成學園に講演にゆき、共同運動の件につき婦人參政同盟の高橋千代子氏訪問。
同　十七日(木)　河崎さんに托けた金子氏の小包着。山陰地方の新聞切拔在中。大にやつて居る様子。廣島の村上さんから新入會者十九名紹介してくる。　市川さん、永井、末松兩氏を訪問。お盆で印刷屋が休みの爲に遲延した會報七月號出來、直ちに發送する。夜迄かゝつて皆がゝりでやる。
同　十八日(金)　金子さん朝上野着で歸る鳥取地方から歸途を金澤支部に立ちよつた譯、金澤支部員の元氣な狀況や、山蔭遊説の話に、午後の出版委員會は賑ふ。
　病氣揚句の森出版委員長も久しぶりで出席、市川、顯原二氏は、矯風會で開かれた共同運動協議會に出席。
　四時半からは財務委員會で大入滿員、何しろ暑いので戸といふ戸を外し、一枚二十七錢のレースカーテンを方々にかけて歩く片隅では渡邊委員長と石本夫人が、大に募金計劃を練る。夜七時から中央委員會。これで夏休みに入るといふ委員會だから協議も山盛り。
同　十九日(土)　雨もやうで稍凌ぎいゝ。お午休みをかねて、臨時職員會議。西瓜を割つて、種々事務上の協議をやる。
　調査委員乘杉さん來訪。
　夜政數委員會開催。村岡花子氏初め委員連暑いのによく出席される。入會一。
同　二十日(日)　今朝の東日紙婦公民權案の政府案草案を掲ぐ。勿論市町村のみに止る。休日を利用して今日は辭任する事務の野津さんの送別會と稱し夕方から事務所一同が淺草に出かける。皆子供づれで、中々面白い。雨も大した事なく割に凉しかつた。
同　廿一日(月)　暑さに負けて金子女史休む。森さん、ウテナ本舗へ廣告の談判に赴く、朝日の竹中記者他二名來訪。
　けふから暑氣烈しいので、半日とし當番をきめてその人が三時まで居殘る事とする
　午後四時より坂本氏宅に理事會、河崎理事は銚子に行つて居るので、市川氏が一人で出かけてゆく。入會者三。
同　廿二日(火)　兒玉さん朝日講堂へ問合せにゆく。秋か正月の募金計劃の爲である事務所はトタン屋根の反射熱で百度近い。
入會二、退會二。
同　廿三日(水)　市川、坂本二氏午前中より募金に出動。午後三時より矯風會に於ける第二回共同運動協議會へ、市川、顯原渡邊の三氏出席。制限公民權案絶對反對の共同聲明は云ふに不及、共同運動には婦人同志會は不參加のよし。これで立派に共同戰線は破られた譯だ。殘る三團體代表で即夜新聞社訪問、九時迄かゝる。
同　廿四日(木)　制限公民權反對聲明に、三團體代表が、內相、地方局長、政民兩黨訪問をするので九時から市川、顯原二氏參加暑熱の中の歷訪は中々容易でない。宮川、金子氏編輯に餘念ない。兒玉さん丹精の朝がほ開く。中々大輪。後の鉢も澤山あるが夏休中開きさうだ。竹內氏來訪。
同　廿五日(金)　金子さんが薄紫のウォーターヒヤシンス一鉢を持ち込んで事務卓を飾る。然し暑さは減じないので、市川さんの令姉たま子女史(太平洋會議出席の筈で上京中)のお土産の瓜を水に冷し割つてたべる。
　今日から事務所は正式に半日となるが、仕事は決して減る譯でない。『婦選』はこれから校正、これを月の內に出して了つて、八月初は會報の編輯發送。それを了へてまづ代り合つて休みを取る筈だが、『婦選』九月號の編輯にすぐまた實務者は追はれる譯である。まづ／＼身體が資本だからとお互にいたはりたい。

或る日の私

坂本眞琴

×

めいめいが、殆んど過大の。仕事を持つて（そして私の場合丈は、その責任地位が憶かに過重である）居る。婦選獲得同盟の役員會では、その迫力と緊張とで、何時も私は押される事を感じて終始する。、さうして會を果して、ほつとして歸路に就くと、今度は時刻が必らず豫定を過ぎて居る爲めに、省電の走力がもどかしくなつてくる。斯くて私は追はれる生活に、自分で自分を押し籠めて居る。絕對に分を守るか、さもなければ、もすこしふて〴〵しい心構になつて「何を！」と云ふ膽力で生きてゆけたらよささうなものだ。其優柔不斷のゆとりなさが、時折は、くつろぎ、自然的な物忘れのされる境地を欲する。それが形に表れると柄にもない野球見物なぞにもなる。「野球見物」にも增して、ほほえましい自然忘境の時間獲得が出來たのは昨秋の靑踏時代思出會であつた。往年の新人、已れの背丈を凌ぐ兒女の母親と化して居るので、懷舊談も少々、類のない現代離れで、二十年前の新人の名が專大扱に馴れて居る警察をチヨツピリ刺戟して、私服が來たが、それはいんぎんな挨拶を苦笑のうちに述べて、引下つた程の忘現代的のものであつた。その昨秋の會合に更に數名の人々を加へ得て、所も同じ中村屋で、同じ會合が開かれたのであつた。然し今度のは、眞名目がたゞの懷舊談ではなくて最近自死を遂げられた詩人春月氏未亡人生田花世さんの慰安會と云ふ、少し濕り氣に富んだ會合。

×

井然として、春月氏が三年の長き間「發悟」を以つて最後の詩作に務められた事を語り、その行衛を探す四日間に迸り出る情感の泉が響となつて七百の和歌を得、爾來、小いこだはりが消えて靜けさのみが心を包んで居ると話す花世さんの錆のある聲には、いかにもしつかりとした力が籠つて居た。「七百首中の十數を朗讀し終られた時、一同は哀悼と憂愁と默禱とに垂れて居つた頭を擧げて、花世さんの落ちついた顏を仰いで、にはかに明るい氣分が、自然にとり返されて　賑かな懷舊談は春月氏を、花世氏を、靑踏時代をめぐつて、試みられた。

うつとりと、その懷舊談をきゝ入つて輕く閉ぢた私の目に、紺絣の着物羽織にセル袴と云ふ男裝の紅吉さんが、足どり迄も活潑に、ふはりとマントで細そりした姿を包んで細卷を器用にくゆらす雷鳥氏と揃つて歩く姿が幻となつて浮び上つて來た。ふと一の爆笑にパツと目をあげると（その賓、私は、稍すこし眠けがさして居たのかも知れない）果然、白雨さんが、手痛く當時の事を當の紅吉さん今の（富本一枝令夫人）にその頃の事をズベズベと話しかけて居られる。見れば令夫人として賓によく納まつてゐる一枝さん、往年の茶目氣は探しても見當らず、只謀もなく悲鳴を擧げて居られる。平塚氏は亦超然たる事南アルプスの雷鳥の如く、靜かなかすれた聲で一寸笑つたのみで、超然乎。

×

懷舊談なんてものは、それに關心の深い人に、無限の興味は添うが、無關心のものには、迷惑至極と思ふので、その詳述はやめて、最後に出席諸氏の氏名の點呼をしておく

追懷の世界の双璧らいてう平塚明氏、富本一枝氏。小寺菊子さん、鳥屋の女主人として已に長い荒木郁子さん當時の靑踏發行者であつた中野初子さん、改造創作欄に筆をギビ〳〵さして居られる野上彌生さん、萬年老を知りそうもない時雨、長谷川さん、今井邦子さん靑踏以來の歌人（舊姓山田邦子現健彦代議士夫人）原田皐月さん、元氣余りある白雨さん、岩淵百合子さん外數名。

とそれから主賓の花世さんと婦選運動杭にひつかゝつて萬年離れ得ない厄介千萬なこの六號埋草の筆者。

女心の内外

（鎖夏隨筆）

生田花世

身體の瘦せてゐる人とつきあふのはむづかしいものである。なぜむづかしいかといへばほとんど例外のないといつてよいまでに瘦せてゐる人はよく氣がまわる瘦せてゐる人はこちらの云はうとすることを前もつて八分どほりはさきに知つてゐるし、云はないところまで推量するし、從つて、こちらの先手を打つてくるので度重なるとうるさくなる。ほとんどこちらでいふ事が出來ない位、むかうが云つて了ふので、ものごとによつては、腹の立つことさへある。しかも、それが、時としては、こちらのいたくない腹までもさぐることがあるからである。瘦せてゐる人は、五ことばのところを、十ことば、十ことばのところを、十五ことばいはないとすまない人の方が多い。又、時には、十ことばを一ことばですます、その一ことばが十ことばにもまさる位にするどくこちらの肺腑をつく。はじめのうちさういふ人の才氣、俊敏、聰慧といふものが、冴えやかで、おもしろく生き〱としてゐるやうに感じられるので、いつしかつきあひもすゝむが、つきあひが進んで來て實生活の交渉がはじまると、さういふ人にかぎつて、こちらの實生活に入つてくる、そして、こま〱と批評をはじめてくる。それからぽつ〱こちらで困りはじめるのである。私は瘦せた男の人、瘦せた女の人のためにかなりさう

久布白さんナンセンス

エス子

婦選の總務理事、久布白オバさんの惜別會には、私も富士見軒へ馳せ參じた一人であるが、婦選猛者がみんな柄にもなく淚聲でものを言つてゐる場面は、ちよつと珍妙だつた。オバさんが目と鼻の間の矯風會の方へ還るといふだけのことに、あの連中が淚を絞るなんて―何かもつと深いわけが潛在するのかどうか院外團の私には分らない。だが每日一緒に仕事をしてゐた重な人が居なくなるといふことは、確かに淋しいには違ひない、たゞこれだけの淋しさだけであんなにしめつぽくなるだらうか、私個人の考としては、抱擁力の大きな久布白さんの樣な人は、誰が考へても得難い人物に違ひない、だから引張り凧にされて、泣かれて、惜しまれるのだらう。世の中の先端に立つて仕事をしてゐる人達、ある時はあらゆる口の惡さをさらけ出して野次りとばす中が、どんなに溫い心で久布白さんを惜しみ崇敬してゐたかといふ事實だけは、まざ〱と感受された。あの日久布白さんはあらゆる贊辭の中に置かれ、推賞の言葉をふり注がれた、私はそれの埋め合せに少々ばかり久布白さんの棚卸しをさせて貰ふ。

久布白さんと私とは隨分古い顏なじみである。あの人を喰つたやうなオバさんのそばへ寄るのはいゝ氣持がする、懷かしい氣がする

した複雑な友情をしたのでおもひ出すがまゝにさうした人々の特長をかいて見ようとおもふ。

痩せてゐる人のまづ特長とすることとは、ものを逆にいふことである。(まれに痩せてゐない人にもさういふ人があるが、少いといつてよい)ものを正面に分るやうにいはないで、暗に語る、しかもそれが、どちらにでもぬけて了へば了はれることばである。これはやはり痩せてゐた女の人の一人、A――子女史であるがある時、夕方、その人をもてなすつもりで、かぐら坂の『尾澤』へ夕食をとりにいつた私たち夫妻及びマスロォは、ずいぶんその人のためにいろ／＼もてなしたつもりであつた。ところが、A――子女史はいつた。

『私ずいぶん自信がなくなりましたわ、私はどういふ方に對してもきつとその人を快活にしてさし上げられる自信がありますのに、Sさんはちつとも快活に私に話しかけて下さらないのですもの』そしてつけ足した。私は、他の方を快活にして差上げられないときは、自分の不徳だとおもつてつらくなりますわ』

このA――子女史の言葉を聞いてＳは唇を少し動かして、もの云ひたげにしてそしてやめて(考へるところがあつたらしく)

『さうですかねえ…………』

とたゞいつた。けれどもSの眉宇にはかげりがあつた。不快とはいへないまでもグッと癪にさわつたらしい。

『快活に他人をするといふのが美徳だといふこと御存じですか?』

といふ反問がA――子女史の言葉のうちには針のやうにふくまれてゐはしない

その風丰だけは十何年前も今も少しも代りがない不思議な人だ、たゞ少し肥つて惠比壽顔がます／＼發揮されたことに氣がつく、しかも筆に口に、實際運動に對しての熱が更に加はり、輝かしい色彩を添へて來た、私は先頃の婦選大會の議長振りを見て感　させられたよく練れたものだ　あゝなければ大衆を相手に仕事が出來るものではない、と思つた。

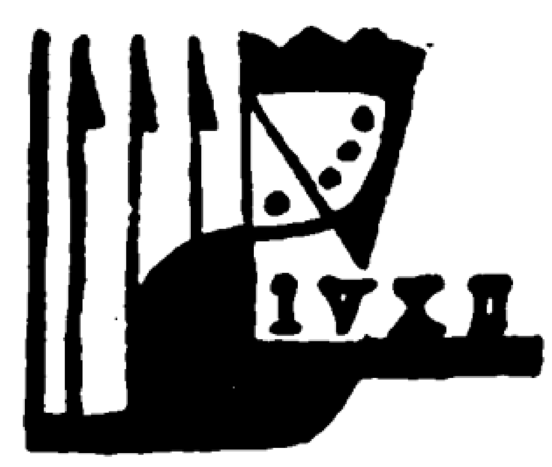
その名議長の榮冠を持つた久布白さんは、いつもニコ／＼としてゐて、まるで惠比壽様からお釣が來そうだ。福の神の親戚の様な人だ、惠比壽様は背中にズダ袋を背負つてゐるが、我が久布白さんの背中にはそれがのつかつてゐない、その代りに皆様御覧の通り、あの人の手には、腹もはち切れそうに詰め込まれた、あまり美しからぬ革の大鞄がぶら下つてゐる、何處へでも彼女の行くところ、それが彼女の側へ従つて行く。かく申す某もある時澁谷の人込みの中で、小さな彼女の姿は見えなかつたが、その偉大なる鞄の存在によつて女史を發見し得た。それ程あの鞄は効能顯著である。

町行く人々は、あの鞄と共に歩く黒洋装の彼女を一たい何と見るだろう、女爵の君?失禮ながろ少々……エー!ト……お粗末、救世軍?少し柔いオベさんの奥がする、ではお産婆?……ても不器用そうなお産婆さん、だが待てよ、あの膨らんだ鞄の様子では、お産婆だ!お産婆も、近頃流行の貰ひ子殺しのお産婆かも知れない。だが讀者よ安 して下さい貰ひ子殺しの惡婆として、彼女がその筋から補縛されないのは、確かに百パーセントの惠比壽顔のおかげであることを私は保證する。

であらうか。』あなたは不德ですね……私を快活にさせて下さらぬなんて……』といふあたりまでもその針はぬふであらう。かういふ云ひ方を、肥つてゐる女は決して云はないといつてもよい。この痩せたるA――子女史の言葉は、およそまづさうした言葉のれんぞくであつたといつてもよいが、今も私の耳にのこるのは次のことばである。

『私の母は繼母なのですの、その繼母を私は私に親切な母であつたとはどうしてもいへないのですの、ごくあたりまへの母ですわ、その母を、私は父に、いつもほめたのですよ、いゝお母さんでうれしいといつて……その氣持分つて下さるでせう、そして私父の言葉にはいつも從順に從はなかつたのよ、いつも父にさからつたのよ。こゝろよくしてはあげなかつたのよ、父の死ぬまで、えゝ死ぬまでしたわ、なぜ私がさうしたかお分りになるでせう……父は私の心など知らずに死にましたわ、不幸な、わがまゝなさからふ娘だと十分におもつて死にましたわ……かわいさうな父、私の心が分らなかつたんですもの……ですから私いつも父のことを思ひ出すごとにあやまつてばかりゐますわ、かわいさうなのは父ばかりではありませんわ。』

いかにその繼母のために心を苦しめたかゞ十分に分ることとは分るが、私のやうなものから考へれば、ついてゆけないやり方である。さういふやり方がはたしていゝかどうかは別としても、さうしたやり方での家庭生活は父親にとつても不快繼母にとつてもきづまり、なまして當人にとつても愉快なものであらうはずがない。そんなにされゝばさるゝほど、繼母は氣がくるしかつたにちがひない。形はな



吸取紙

×月×日

「次號より連載長篇讀物」などゝ麗々しく豫告して置きながらさてとなつたら「ジエイルド・フオア・フリーダム」の原書がどこかへ姿をかくしたまゝどこをどうさがしてもつひに出て來ない。

目のとどくところ日本にはないといふ代物萬策盡き即ちホノル、のミスグリーンへ電報を打つ。この料金六圓八十四錢也。ミスグリーンからはすぐその次の船で本は送つて來たけれど肝心の譯者は信州の山の中へ出かけてしまつたあとといふ次第。遺憾ながら、嘘をつかなければならなくなつた眞相右の如し。

×月×日

所がその後でグリーン孃から手紙も來た「一册しかない本だから、それはあげられない從つて米本國へ新しいのを一册注文したから着次第送る、だから、そしたらそれは送りかへしてくれ」と。なる程送つて來た本は、グリーン孃が他から贈られた大切な

だらかにゆくとしても心は決してなだらかであつたとはいへない。みんながみんな不自然に歩きすぎる。繼子がむしろ繼母をいぢめるやうなものである。さういふやり方で……。

×　×

もう一人の痩せたる女の人――T――子女史はいつも良人のことを木偶のやうな人、つまらぬ人、おもしろくない人、そばでゐるといやになる人だといつて、訪ねてくる毎にその良人への不平不滿をもらすのがくせではあつたが、

『あなたの旦那樣のやうぢやこまりますね』

といつかいつたらその人の眉はピリ／＼とした、そしてすぐにいつた。

『あの人だからこそ私を教育してくれたのですわ、あの人だからこそ、私がかうしてやつてをられるのですわ、』

それからそれからと良人の辯護をしきりにつとめたのであつた。この人のもう一つの――もう交つてゐない人であるが――今もおぼえてゐることは 家がかはりたい、今ゐる家にはもう長くゐるつもりがない．そのうち家をこしますから私の家へひつこしておいでなさい ませんかといふことであつた。そこで、丁度家をさがしてゐた人があつたので、その人に名刺をつけて、もし他にこされたらこの人にゆづつて上げて下さいとたのみにやらせるとT――子女史は、その次あつた時青い顏をしていつた。

『この間御紹介の方が來ましたわ……でも私はその人のために、急に引越すといふわけにもゆきませんわ……』

サインがあるものだ。この著書の一部にはグリーン孃も執筆してゐる。

とにかく、萬里の波の彼方からこの親切、これも同じ國こそ違へ女の婦選の獲得には同志だからこそ。これを思ふと、同じ國の内でもグリーンに追ひつかないご連中がちと多すぎる。（い）

×月×日

會報十五號には七月二十五日から八月一杯は、午前中だけで休む由なので、今頃行つても鍵のかゝつてゐる扉を押してみて、むなしく歸るのが關の山、とたかをくゝつて來てみたら、市川、金子、宮川、兒玉さん達机の前でせつせとペンを走らせての御精勤その上子供の病氣のため久しぶりで出て來た私に、「暑かつたらう」と兒玉さんが一走り、氷を提げて來て、冷めたいシロップの御馳走である。兎角仕事に精勵な人はガリ／＼で情味に乏しくなり勝のものなのだがこゝの人達は憎い程仕事をするし、胸のつまる程豐かな情味も持ち合せてゐる。併しこれでこそ婦選が確實に獲得されると云ふもの。（す）

こういふものゝ此筆者こそ、職業もちで二人の子の母親、その母親として、下の坊や

不快さう。

いつも〳〵次から次へと現實の生活に滿足しない夢でその人は、語つたわけなのであつたかとはじめてその人の性格を考へなかつたことを悔いた私であつた。

T――子女史はまたあの人がうるさくていつもいつたが、其うるさいとT子女史からいつも云はれる人は、女史にもつとも接近してゐる親切な人なのであつた。つまりうるさいとしていやがる人の中に、私もまたどうして入つてゐないと斷言が出來ようか。そんなことから私は常にT――子女史との交際には深入りしないやうにと注意したのである。

いつかの時のこと、私の家に面倒をみてゐた娘に戀愛事件があつて、その一夜だけのしばらく座をはづさせねばならなかつた、それで手紙をもたせて、宵の内だけ一寸おあづかり下さるやうにとたのんだのであつた、ところが翌日の夕ハガキが來た、『私たちは生活の靜かさをいつもねがつてゐるものです。水の中に石を投ずるやうな事をなさるのは、今後おことわり申します』

それは、そんな場合めいわくでなかつたとはこちらもおもはない、しかしかういふハガキをとばさなくてもいゝとおもふのがこちらの心である。しかしその人はとにかく冷い人であつた。どういふ時にも自分をまもる人であつた。子供なども愛してゐながら、愛することがつねにうるささうであつた。そして、そんな人に交つてゐて、こちらの無事な時はよいとして、非常の時にどうされるかを考へれば心ゆるせぬ警戒がつねに私を冷かにさへもした。

お疫痢になつてからの半ケ月、どんなによく二つの責任をかけもつた事か、その中から委員會の會合日には、必ずキチンと、病院から電話をかけて來たものだ。いくら三回無届欠席すれば失格といふ內規があるにしても、中々こう規帳面には出來ないものだ何だか大抵の事を社會組織の欠陥にして、個人の道徳や努力は塵埃のやうに思ひたがる世情に染まぬSを私たちは、本當に嬉しい同志だと思つてゐる。(し)

×月×日

信濃路はかなしかりけり眞夏にも愛ひの如く雪の殘ればー有島武郎氏の歌ですがー夏になれば海に山にと心の動く此頃です、今度出版委員におなりになつた大竹せい子さんに、金曜日の午後は委員が集ることになつてますからと手紙を出したら、葉山から、此處は涼しいからどなたでもゐらつしやい二三人位迄は泊れますとの海邊からのおたより、海へ山へと憧るゝ心をじつと耐へて大悟徹底したつもりになつて……今日から印刷所の校正室に出かけるのです。何しろお暑いことです。折角皆様御自愛をそして秋冷と共に元氣を盛り返して戰線に加つて下さい。(み)

母さんの働く間汗もだらけで、託兒所にゐるMの女の兒の事を考へると、夏分は雜誌なんか休刊してもいゝ樣な氣にもなるのだが。(あ)

萬女鑑

八月（葉月）

日曜　三日　十日　十七日　廿四日　卅一日

×

蜩や捨てゝおいても暮るゝ日を　　捨女

入

いなつまの走る度兒をひしと抱くかみなりつゝよき夕やみの中　　白蓮

×

夏の行事の一に虫干を數へたのはもう昔の事です。我國で輸入する毛織物及その原料は年額二億圓、その内の一千萬圓は虫に害されてゐるのだと判つたら、いつまでもウカ〱と、害虫の出盛る暑中に虫干でもありますまい。

毛織物を食べる虫の名は、イガ、コイガ、モンセンガ、チビマルカツオムシ、ヒメカツオムシ、これらの虫の活動期は成虫が出現し初める四月頃から、幼虫が盛に食餌を攝取する十一月迄で、後は越冬期で幼虫が冬眠するのです。だから、毛織物の虫干は、冬空氣の乾燥してゐる時が一番安全なのです。

×

夏場、汚れ易い半襟、水洗ひも出來にくいものは、糊氣のない手拭を平に擴げておき、襟は山から二つ折にして汚れた個所をつまみ、揮發油の壜口にあてゝしませ、輕くもみ、手拭の上に擴げ、重ねたまゝ小口からまき、上から輕くもむと、汚れが手拭に移り、襟垢はきれいにとれます。一度でだめなら二三回くり返す事。手拭は使用後洗つておきます。

又倘汚れのとれぬものは、布海苔液で小さい刷毛を用ひて叩き洗ひして御覧なさい。

半襟に限らず、絹物には布海苔洗ひが、質も痛めず、色も害はぬ上に、光澤が出て大變工合のよいものです。

×

不二絹の洗ひ方

不二絹は、アルカリに抵抗する力がないので普通の石鹼では生地をいためますから、やはり絹の様にマルセールかラツクスを撰び五、六%の温湯溶液に數時間浸して、後刷毛で洗ふか輕くつまみ洗ひするのがよろしい

色が黄ばみ易いが、その時は酸性亞硫酸ソーダの五%液に四五時間浸しおき、水洗ひし、鹽酸二、三%液に數時間浸した後、よく水洗ひし、最後に薄い醋酸につけて漂白します。

×

ヒマシ油は赤ちやん十グラム十五歳位まで十五グラムそれ以上二十五グラムと大體年に應じてふやします。

赤ちやんには匙にのせてのませると、割に大人の思ふ程でなくのみますし、子供には砂糖水にうかせてのませると、すぐのみます。

×

夏は食べ合せに特に注意したいもの、

西瓜と天ぷら、うどん、そば

燒酎に冷奴、

胡瓜にコンニヤク、

鰻の後の白瓜、

氷とカニ

なんか、お互に不消化物なので胃腸の弱い人は大抵下痢を起しますよ。

×

蜂や毒虫にさゝれたら、朝顔の葉か菊の葉を鹽でもんでおつけなさい。すぐかゆみが止り、毒が消されます。

×

アセモの民間療法で昔から用ひられてゐて特効のあるものは桃の葉を煎じて薄い番茶位に煮出した汁で、毎日四五回洗ふと治ります。

胡瓜や茄子の切口から出る汁をつけるのもよく、生姜の新しい葉をよく煮出してそのお湯で行水しても効果があります。

×

胡瓜の水が美容にいゝ事は御存じでせうが、手軽に自家で作つて、新しいのを用ふと尚よろしい。

まづ胡瓜の皮を剝いて種を取り、實だけ卸し金で卸し、絹布で漉して汁をとります。この儘でも用へますが、より完全にするにはグリセリン一割、硼酸末百分の一か二位入れるのです。

同様な方法でトマトから取つたものは、日やけ止めに特効があります。

×

糸瓜水のとり方

八月末か九月、根元から一尺位の邊から切り、地面に殘つてゐる方を曲げてビール瓶の中にさし込み、瓶口を雨水などの入らぬ爲に竹皮でまいてしばつておくと、一晝夜に四合から一升の糸瓜水がとれます。

とれたらすぐ固い栓をして椽の下のやうな暗い冷い所に貯へておき、使用する所は上澄を小出しにします。

有合せの香水少し入れるといゝ香になります。

×

家庭で出來るトマト、ケチヤツプの作り方

トマトをよく洗ひ、セイロで一時間位蒸し、ざるに入れて、龜の子タワシでつぶして漉しもう一度裏漉しにかけて肉汁だけ漉し取つたら、火にかけ、煮つめどろ〳〵の程度にし、味をつけます。

味は汁一升に對し砂糖七匁、鹽六匁、酢五勺、胡椒一匁、桂皮末一匁出來ればパセリやセロリのやうな西洋野菜の葉を袋の中に入れて煮たものを加へると香りがよくなります。

これは腐り易いもの故、熱湯で洗つた壜につめ、お酒のカン位に湯煎した後、密閉しておけば貯藏に耐えます。

×

小豆を早く煮る法

砂糖を少し入れること、又竹の皮を少し入れてもよろしい。

×

砂糖蜜の製法

砂糖五勺、水一合の割で二十分位强火で煮る。その間、かきまはさず、上に立つ泡だけ掬いすてる事。

×

盛夏の食卓には、目さきの變つたお漬物こそ、食慾をそゝつてくれませう。

胡瓜を洗つていぼを取り、そぐ樣にしてよい程に切り、薄打茗荷と、穗紫蘇のしごいたのと三種合せて鹽をふり、まぜ、軽い押しをしておくと二日もたてば食べられます。

×

胡瓜の代りにキヤベツを二三分に刻んだのも結構ですよ。

×

糠味噌漬の古茄子、鹽出しゝてよく絞り、適宜に切り、味淋に浸しておくと、茄子の色がすき通りべつこうのやうになります。

×

もづくも夏のお料理でせうね

もづくは、鹽したのでも、生のでも、灰をまぶしつけ、よくもんでから、微温湯で洗ふと程よくぬめりがとれますから、後は淸水でよく洗ひ布巾にとつて水氣をさり、三杯酢でたべます



或女の憂鬱

松浦久子

小集

不意の催しでほんの內輪の集りだけに人數はごく少なかつた。男と女と合せて丁度十人――それでもいゝことに人數は半々できつちり五組は踊れるわけだ。おそくなつたと思つて行つたT子の着いたのが八時。それを皮切りにぽつ〱人數が揃ふまでには、小三十分もかゝつたが、蓄音機はいつまでも鳴らなかつた。小人數だけに充分踊れることを豫期して行つたT子は、案に相違していつまでも至極閑散な部屋に少し勝手が違ふやうな氣がした。いつまでも主婦の朝子やS夫人姉妹と朝子の赤ン坊を抱いたりあやしたりして居るのではつまらなかつた。

それでも、やつとレコードがかけられて、鳴りは鳴つたが誰も踊らない。これはタンゴださうだ。T子のまだ名前を知らない一番若くて一番下手な紳士だけが、せつせと部屋の隅を獨りで行つたり來たりして居た。

三四度目のレコードでやつと踊がはじまつた。主人の醫學士が相手に選んだのはS夫人の妹だ。せいが高くて姿のいゝこのお孃さんは、癖のないいゝ踊手だつた。T子は惚々と足のさばきを見て居た。今夜は夫と一緒でないだけに誰といふパートナーも持たない彼女は、結局あの一番下手な若紳士と踊らなければならない運命を、投けられさうな氣がした。――だが幸にそれと正反對に一番上手な書家のK氏がプロポーズしてくれた。T子は喜んで――むしろ光榮をさへ感じて立上つた。

ダンス好きで聞こえた主人公が、こゝに病院を建てる時に、肝腎な病室よりももつと〲第一義なダンスホールをその住居の中に設けたことは誰にも當然だと思はれた。美男子で趣味が豊かで氣前がよくて、一番嫌ひなのは病人の診察だと云ふこの醫者は、せめてかうして遊びでもしなければやりきれないと云ふ様な顔して、いつも先づ自分が踊つて踊り抜くのだつた。

『腹工合が悪くて二三日飯を食はないんだが、お粥腹でも案外へたばらないもんだね』

などゝ云ひながら、不養生のありつたけをするやうな醫者だつた。それに朝子は朝子でゆつたりと上品なところが丁度似合の夫婦だつた。一寸男爵には踏める夫の風采に比べて、遜色のないほど美しい顔と均勢のとれた立派な軀の持主だ。四十近い年でもちつとも世帯染みずに、お嬢様がそのまゝヌーと伸びてしまつたやうな人で、この位の年配になると有勝の賢明ぶつた態度や、かたくなな感じなんか何處探してもない——一口に云へば愛すべき奥様だつた。

……する〲と滑かな床の上にすべり出たT子は相手が上手なK氏だけにらくに踊れると思つたのはうそで、最初から妙に身體のぎこちなさを感じた。人數が多いと可成ぶつかり合ふこのホールも、たつた一組や二組ではあまり廣々として居て、T子のやうな氣のちいさい人間には却つて身のこなしがつかないのだ。彼女は踊つて居る自分に注がれる視線を絶えず意識し、そしてうまく踊れない不滿とひけ目とで自分を責め苛みながら、一方には又K氏の足の動きに過たずついて行かうとする努力で、一生懸命だつた。彼女はフォックストロットを踊つてゐる——まさしく踊つてゐる——けれども彼女自身としてはたゞ焦燥の足ずりを、フォックストロットのリズムに合せて居るだけの事なのだ。そして到々最後までその狀態から抜け切らない中に、曲はすんでしまつた。

ほつとしてK氏に輕く挨拶したT子は、K氏にとつて何といふいやなパートナーだつたらうと思ふと、急に又憂鬱が加はつた。

食堂にて

午後二時すぎの松屋の食堂、裕福らしい五十がらみの奥さんが兩手をテーブルの上に輕く組んで、誂の來るのを待つて居る――その横に私もやつぱり誂を待つてゐた。

眞正面に見える邦樂座の屋根の上の文字をぢつと凝視めてゐると、曇日のせいかそこら中の建物が皆お墓のやうに陰氣で、都會の中心に居るやうな氣がしない。妙に食慾がなく元氣がなく、何のためにかう出歩いてゐるのか馬鹿々々しくなつてしまつた私は、今日もやはり自分自身の生活でなかつたと云ふ後悔を發見したに過ぎなかつた。今出て來た朝日講堂――そこで私は何をしたと云ふのだらう、△△會の幹事と云ふ名のもとにたゞ働きをさせられ、時間を浪費させられて、それで結局×××社といふものが私の何でもあり得ないと云ふ現狀――何かにありつかうといふさもしい心から、抑もこんな仕事を引受けたのがいけないと云へばそれつきりだ。世渡りの道は少しの隙でもねらつてうまく何かの蔓にありつけと敎へる。その敎へをそのまゝ遵奉した時の私は、賢いとは自惚れぬまでも、決して愚かな策とは思はなかつた。――それならそれで、何かにありつくまではしつかりつかんで居ればいゝではないか、犬馬の勞をも厭はねばこそ、酬いられる日もあらうと云ふものではないか、それもさうだ……がやつぱり私は溜息をつく。

かうして結局さもしい心で働いて、しまひに馬鹿々〱しかつたと思ふ位なら、やはり靜かに家に引こんでゐた方がいゝ。ほんとうの自分の力で自分の道を進んで行つた方がいゝ。さうすれば誰に頭を下げなくともいゝ。それにちがひない。たつた一度で後悔してゐる私ではないか。この上どこまでこの愚かさを繰返さうと云ふのだらう。

――奥さんはホツトケーキにバタを塗つた。細かな大島、錆鼠の襟、黑い羽織、眞珠の帶止、ダイヤの指環は二つまで左の指に輝いてゐる。大學を出た息子さんのために結納の品でも買ひに來たのか、懷には家賃の上りでもうんと

這入つて居さうな手提もすばらしい革だ。

私は茶めしおでんをゆつくり一口〱味つてたべた。少し間の拔けたやうな味が却つて今の私にはよかつた。——

マノン

T子の氣分はいよ〱持つて行きどこがなくなつた。憂欝の代りにもつと始末の惡い倦怠が來た。尤も一口に云へば倦怠とでもいふ字をあて嵌めるより仕方がないが、それは然し、決して物にうみ疲れたといふやうな單純な感情だけぢやなかつた。あらゆるものに興味を失ひ、あらゆるものに希望を失ひ、そしてたつた一つ殘つた最後のもの——創作慾までが、これは先方から愛想をつかされやうとしてゐるその頼りどころのない張合のない疲れだつた。生活全體が張を失ひ、だれ切つて居た。

友達——人間——さうしたものには殊更うんざりし切つて居た。誰にも顏を合はさず、誰とも口をきかずに暮らしたいと希ふ氣持は、絶間のない訪問者によつてこはされた。そしてしかも彼女は成可く誰に逢ふこともさけやうとしてゐるにも拘らず、時には彼女自身がその心を裏切つて、自分から人を訪問したくなることさへあつた。そして訪問した後ではきつと淡い後悔に似たものを感じるのだつた。

だが——いゝ藝術には接したい！　その欲求は日を經るごとに熾烈になつて來た。胸を打つやうなもの、グンとこたへるやうなもの、何か知ら自分に向つて偉大な力を示してくれるやうなもの……それにしても音羽屋の汐汲を見たことは得がたい滿足だつた。それに今日マノンレスコーを見た事も——。

ジョンバリモアの顏に隱しがたい凋落の陰影を見た幻滅はさることながら、あの倶樂部の場、僧院の場の妙技は何か知ら彼女の心に痛いほどしみ透る力を持つてゐる。殊にあの僧院の場で、マノンにかきくどかれ取すがられて、振切つても〱斷ちがたい愛着の絆に、到々神への誓もなげすててあのマノンをかき抱く一刹那、そして次ぎの瞬間の

狂ほしいまでの愛撫……T子はそゞろに我れにもない追慕の情を湧かしつゝ、まじろぎもせず見つめて居たのだつた。彼女の心によみがへる六年前のある夕よ！

最後の幕から眼を放して、まだ明るい夕方の街路に出た時、T子の歩みは輕かつた。そして心持も明るかつた。少くともマノンを見ない前よりはT子の心に喜びが多かつた。やつぱりいゝ藝術品はいゝ、それに鞭たれるのは幸だ！もうその朝、同級會を斷つた時のやゝためらひ氣味な殘惜しさなどは、跡方もなく消え失せてしまつた。人間同士のおしやべりのくだらなさよ、それに引かえ、この藝術品のすばらしさはどうだ！

彼女はこれまで歩んで來た道の數限りもないおもひでを、一つ〳〵拾ひ上げ、一つ〳〵を立派な藝術品に造り上げやうと思つた。せめてマノンの幻影の消えない間も——。

次號より連載長篇讀物

ドリス・スチーブンス女史著

"Jailed for Freedom"

藤田たき　譯

先きに英國のパンカースト女史等の苦鬪を傳へた譯者により同じ運動を米國に移して遂に目的を獲た人々の物語を、再びお傳へする事にしました。

●●●編後雜筆●●●

――暑中お障りありませんか。この暑さの中を毎日郵便屋の小父さんの届けてくれるものゝ中に、必ず新規の購讀者のある事は、本當に嬉しい、寧ろありがたい事です。

お目にはかゝらなくても、この小さいものを支へて下さるそれら愛讀者の方々の事を考へ乍ら、私共は、今月號もまづしい力を注いで、只今机上にお送りする次第です。

――やけトタンの溫氣の下では、能率も上りかねます上に、九月號も七月中にくり越して、八月を休むといふやうな世間並の功者な藝當の出來る身分でもないので、今月號は殘念乍ら少し減頁の上、輕い氣分の頁も作つてみましたが、出來上つてみれば。矢張『婦選』は婦選です。

殊に〆切間際になつて公民權の政府案の發表があつたりしたので、一部を急に模樣がへするなど殆ど毎月似た事はあるにしても、季節柄大分骨を折りました。だが、それだけの効はあつた積です。

制限案をどうみる?の諸家の回答、市川氏の論文、よみごたへあるものです。

――生田氏のものを久しぶりで頂きました。松浦氏は、熱心な同志の一人で、令名ある閨秀文筆家のペンネームです。

小泉郁子氏はお茶の水出身の方で、最近米國から歸られた方久布白氏の惜別會に出席されて僞らぬ感想を寄せられたのです今後もかうした寄稿を大に歡迎します。

――前號に豫告した、米國婦選運動史の飜譯は、都合で九月號から連載します。十二分に期待して頂けるものです。譯者藤田氏はこの夏休中に譯了の豫定で目下信州の溫泉で飜譯中です。

――本誌の六號記事は益々增加する一方なので、印刷屋を泣かせてゐますが、幸に愛讀して下さる方も增す一方です。

秋には一つ在京誌友の會合でもいたしたいと存じてゐます。そしてもつと〲自分たちのものとして育てゝいたゞきたいと切望します。

前號發表の誌友紹介、早速反響がありました。何卒皆さんで御努力下さいませ。ではお互にこの暑さを健かに凌いで、又來月元氣でお目にかゝりませう。

――九月號は今から計畫山のやう。八月末に届くやうに、すぐ取かゝります。（秋のやうに空のすんだ日に、編輯室にて）

本誌定價

▽一部 金二十錢（郵稅五厘）
▽半年分 金一圓二十錢 稅共
▽一年分 金二圓四十錢（稅共）

誌代は前金で拂込は振替が御便利です、切手代用は一割增に願ひます

廣告料

廣告御希望の方は御一報次第、料金その他御通知いたします。

昭和五年七月二十九日印刷納本
昭和五年八月一日發行

編輯、印刷兼發行人 市川房枝
東京市芝區南佐久間町一ノ一
印刷所 研文社印刷所
東京市麴町區麴町四ノ五
發行所 婦選獲得同盟
電話九段一七一九番
振替東京七〇三八三番

241

澁澤子爵 三宅博士推奬序文

實業之世界社々長 野依秀市著

生ける處世術

▼活人の語る活處世訓！先づ此内容目次を見玉へ！

◉僕が三十年間體驗せる運命開拓法と其實證……
◉如何にして澁澤子爵に取入りしか……
◎考へてゐる者は失敗し實行する者は成功す……
◉成功は男兒の快事に非ずとす何ぞ……
◉私が元氣よく働く七つの理由……
◉先輩は社會に對する禮を知れ……
◉我等は何故に自ら廣告する乎……

◉青年は斯して天下を横行濶歩せよ……
◉目的なしに働け……
◉誤に直面して……
◉誤解は何處から何處へ……
◉慘憺を極めたる年末の實驗……
◎我輩は大晦日である……
◉一年の總勘定の仕方……
◉吾輩は如何に國家を利用しつゝあるか……

◉人を訪問して必ず要領を得る法……
◉青年を誤らんとする先輩の修養論……
◉吾等の元氣は斯の如くして盡きず……
◉青年は斯くの如き方法で老人に肉迫せよ……
◉今世は少し働けば直に成功す

其他總計八十六項滿載

生活難突破の最良書好評忽ち三十版突破！

四六判七五〇頁
二圓五十錢
（送料廿四錢）

東京芝愛宕町振替東京五八五七七
秀文閣書房

Vol. IV, No. VII "FUSEN" AUGUST. 1930
Published monthly by The Woman's Suffrage League of Japan.

昭和四年十二月廿八日第三種郵便物認可
昭和五年八月一日發行



發行所 東京 麹町、四ノ五 婦選獲得同盟